

# Nishimatsu CSR Report 2013

## 西松CSRレポート

In the current era there is a requirement that a company should make a contribution towards society. Nishimatsu Construction will continue to develop to meet this challenge and respond to the requirements of a variety of stakeholders through corporate trust and accumulated technology.



# Nishimatsu CSR Report 2013



## 編集方針

西松建設では、社会要請への対応と、さまざまなステークホルダーの皆様へ当社の企業活動を知っていただくことを目的に、2011年から「CSRレポート」を発行しています。

アンケート等で、ステークホルダーの皆様からいただいたご意見を取入れ、3回目の発行である「西松CSRレポート2013」では、「N-Vision2020」にもとづく活動の成果を、「7+1のCSR活動ポイント」(P15参照)に示すカテゴリーごとにご参照いただけるよう構成に配慮しました。また2013年からは、英語版レポートの発行も予定しており、海外での事業活動を包括する西松建設グループとしての報告内容となるよう努めています。

当社の会社案内を兼ねた本レポートについてステークホルダーの皆様からの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

## CSRレポートの対象期間

本レポートの対象期間は2012年4月1日～2013年3月31日(2012年度)です。ただし、2013年度以降の活動も含まれます。次回のレポート発行は2014年6月を予定しています。

## CSRレポートの対象範囲

本レポートの対象範囲は、基本的に西松建設株式会社単体となりますが、一部海外ならびにグループ企業による企業活動も含まれます。また、会社概要等における情報に関しては、グループ連結の表記があります。環境報告の目標値・実績値等については、国内の事業活動によるものを基本とします。

## 参考ガイドライン

GRI「サステナビリティレポートガイドライン3.1版」

ISO26000

環境省「環境報告ガイドライン2012年版」

経団連「企業行動憲章 実行の手引き(第6版)」

## 2012年度の主な表彰

### 関西まちづくり賞

公益財団法人 日本都市計画学会関西支部より  
・東岸和田駅東地区防災街区整備事業(当社ほか事業組合および関係企業4社)

### 工事成績優良業者表彰

福岡県福岡市より  
・比恵(博多駅東1丁目外)地区下水道築造工事

### ダム工学会技術賞

一般社団法人 ダム工学会より  
・最上川長井ダム建設事業  
(国交省、当社、清水建設(株)、大豊建設(株)ほか1JVおよび2社)  
・嘉瀬川ダム建設事業(国交省、当社、(株)奥村組、(株)フジタほか1JVおよび1社)

### 平成24年度優秀工事表彰

東日本高速道路株式会社様より  
・常磐自動車道石岡・小美玉スマートIC工事

### 平成23年度安全成績優秀表彰

工事関係事故防止対策委員会および  
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構より  
・北陸新幹線新上越変電所外1箇所新築工事(当社、(株)加賀田組、(株)坂詰組)

### 第13回公共建築賞優秀賞

一般社団法人公共建築協会より  
・健康増進温浴施設ループしおのえ建設工事

### 無事故無災害竣工優良事業所表彰

東日本高速道路株式会社東北支社様より  
・常磐自動車道小高南工事

### 平成23年度の豪雪における除雪・排雪活動に対する感謝状

国土交通省東北地方整備局津軽ダム工事事務所より  
・間・西松特定建設工事共同企業体津軽ダム出張所

### 平成14年度からの町道清掃、公共施設等の 除排雪作業の実施に対する感謝状

北海道新十津川町より  
・西松・岩田地崎特定建設工事共同企業体

そのほか表彰、感謝状など38件

## CONTENTS

■ トップメッセージ	03
■ 会社概要	
会社概要	05
事業概要	07
■ 2012年度の主な竣工実績	09
■ NISHIMATSU View	
特集01 香港進出50周年	11
特集02 福岡県糟屋郡新宮町 沖田土地区画整理事業への参画	13
■ マネジメント	
CSR経営	15
■ N-Vision2020	
■ I 建設・顧客	17
■ II 安全・健康	21
■ III 雇用・人権	23
■ IV ガバナンス	
コーポレート・ガバナンス	25
リスクマネジメント	27
コンプライアンス	28
■ V 環境	
環境マネジメント	29
環境負荷データ・地球温暖化対策・生物多様性	31
資源循環・環境ソリューション	33
■ VI 地域・社会	35
■ VII 産業・サプライチェーン	37
■ コミュニケーション	
ステークホルダーダイアログ	38
第三者意見	40

# 3年間、育んできた「信頼の大樹」。 これからも大きく、その枝葉を広げ

信頼回復に向けて、2010年度より全社的に取組んできたCSR活動。

「すべての人を大切に想う」— そのCSR経営方針のもと、全社一丸となって取組んできた本格的なCSR活動も本レポートは、その取組みの集大成としてのご報告に努めました。月日とともに、着実に広がり始めた「信頼の大樹」これからも、たゆみない努力と新たな挑戦を続け、その枝葉を力強く育てていきます。

## さらなる「復興」へ。

### 事業を通じて継続的な支援を続けていきます。

東日本大震災から2年以上が経過しましたが、未だ被災地では多くの方が厳しい生活を余儀なくされる状況が続いています。防災・減災を担う建設業として私たちは、“安心・安全の確保”を重要課題に掲げ、復旧・復興に携わってまいりました。2012年末の政権交代を期に、経済情勢も少しずつ明るいきざしが見えてくる中で、引き続き「復興」という言葉に応えるべく事業活動を通じ、ご支援させていただく所存です。

## 「中期経営計画2014」にもとづき

### 新たな事業価値の提供をスタートしました。

成長期と位置づけてスタートした「中期経営計画2014」の1年目となった2012年度は、いくつかの課題はあるものの、概ね順調な成果で締めくくることができました。これまでの国内外の土木・建築事業という核に、開発・不動産事業および新規事業を加えることで事業の幅を持たせながら、さらに事業本部制を導入することで、一貫通貫事業モデルを確立し、建造物の企画・設計段階から施工、維持管理を含めた“建造物の一生”をご支援する体制づくりを推進してきました。

新規事業の一環として玉川大学との産学連携により実現した植物工場『Sci Tech Farm(サイテックファーム)』では、LED光源と液体肥料によりレッドファイヤー、グリーンウェーブ、フリルレタスの3種類のリーフレタスが順調に育ち、出荷・販売されています。まさに「食の安

心・安全」のニーズに応える新たな事業価値の提供であると確信しています。

## 大きな節目を迎えた海外事業。

### 今後も事業活動を通じた貢献を目指します。

当社は約140年の長い歴史の中で、海外においても積極的に事業展開してきました。その結果として、2012年には香港進出50周年を迎えることができました。1964年、戦後初の大型海外工事である「ロアシンマングム」をこの地で完成させ、当時の水不足に悩まされていた香港の大きな変革に寄与できたことは、今でも当社の誇りです。50周年の記念式典では、在香港日本国総領事をはじめ関係企業先の皆様をお招きし、これまでのご支援に対し感謝の気持ちをお伝えすることができました。



香港進出50周年式典の様相

さらに、2013年はタイへの進出50周年を迎えます。2011年に起きた大規模な洪水では、現地法人である泰国西松建設(株)の現地スタッフも含めた社員たちが最大限の復旧支援を行いました。

香港とタイにおける事業展開がともに50周年を無



# ていきます。

3年が経ちました。  
の枝葉。



事に迎えられたことは、今後の海外事業の拡大に向けた大きな自信と新たなステップにつながっています。

## 2020年のあるべき姿、長期活動目標「N-Vision2020」の実現に向けて。

中期経営計画2014よりもさらに先、2020年の当社のあるべき姿を「N-Vision2020」として策定し、西松建設のCSR経営方針である「ステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を実現する」ための羅針盤として歩みを始めて、3年が経ちました。前回の社員ダイアログを一步前進させ、今回は社外の有識者を招いたステークホルダーダイアログを開催し、新たな気づきや課題をいただきました。このような機会を通じて社外の皆様とのコミュニケーションを続け、N-Vision2020実現に向けたPDCAサイクルを継続し、必要に応じて軌道修正を施しながら最善を尽くす。そうすることで西松建設がステークホルダーの皆様から信頼をいただき、社会から必要とされ、社会の持続的発展に貢献する企業として認めていただけると信じています。そのためにも、このN-Vision2020への取組みを推し進め、当社の隅々にまで浸透させ、その成果を確実にすることが私の大きな使命だと思っています。

一人ひとりが経営者の一員たれ。これは私が全社員に望む基本姿勢です。それぞれが日々の業務において、経営者の立場で判断し、行動する。その心にCSR経営方針があれば、ステークホルダーの皆様とのWin-Winの関係が必ず実現するでしょう。

### 社 是

#### 勇氣、礼儀、正義

～挑戦する姿勢、感謝する気持ち、正しい姿勢～

### 企業理念

培ってきた技術と経験を活かし、  
価値ある建造物とサービスを社会に提供することで、  
安心して暮らせる持続可能な社会・環境づくりに貢献する。

## これまで、これからも。 社員一人ひとりが 真摯にCSR活動に取り組んでいきます。

まだまだ信頼回復の途上である当社は、社是である「勇氣、礼儀、正義」を忘れず、中期経営計画2014を1つのマイルストーンとしながら、N-Vision2020の実現に向けて取り組んでいかなければなりません。その途中経過として進捗状況をご報告する当社のCSRレポートも、今回で第3号を迎えました。読者の皆様には、3年分の想いを感じていただければと思っています。忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただくとともに、なお一層のご支援をよろしくお願いいたします。

代表取締役社長

近藤 晴貞

## 会社概要

商号：西松建設株式会社  
(Nishimatsu Construction Co.,Ltd.)  
本社：〒105-8401 東京都港区虎ノ門一丁目20番10号  
電話：03-3502-0232  
代表者：代表取締役社長 近藤 晴貞  
創業：1874年(明治7年)  
設立：1937年(昭和12年)9月20日  
資本金：23,513,643,819円(2013年3月末現在)  
従業員：2,309人(2013年3月末現在)  
主な事業内容：建設事業、開発事業、不動産事業 ほか

### 取締役

代表取締役社長	近藤 晴貞	取締役	澤井 良之
代表取締役	水口 宇市	取締役	小森 孝男
代表取締役	前田 亮	取締役	高瀬 伸利
代表取締役	鈴木 堂司	取締役	齊藤 勝昭
		取締役	佐藤 信昭

### 監査役

常勤監査役	藤井 利侑	社外監査役	松田 利之
常勤監査役	羽村 巨	社外監査役	上杉 純雄

### 執行役員

社長	近藤 晴貞	常務執行役員	伴 治人
副社長	水口 宇市	常務執行役員	工藤 義昭
副社長	前田 亮	常務執行役員	松本 章
専務執行役員	鈴木 堂司	執行役員	戸倉 滋
常務執行役員	澤井 良之	執行役員	金子 秀雄
常務執行役員	小森 孝男	執行役員	森本 裕朗
常務執行役員	高瀬 伸利	執行役員	齋藤 順一郎
常務執行役員	古谷 俊雄	執行役員	河埜 祐一
常務執行役員	安部 修一	執行役員	酒井 祥三
常務執行役員	高嶋 章光	執行役員	梅田 一成
		執行役員	森田 潤

### 支社長

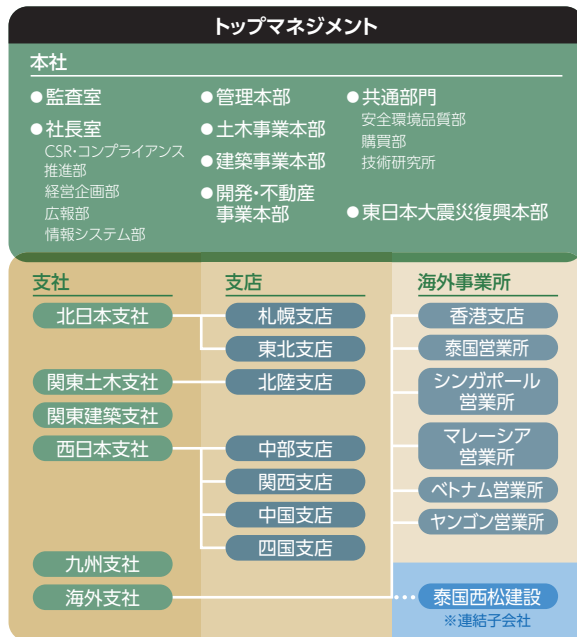
北日本支社長	工藤 義昭	西日本支社長	伴 治人
関東土木支社長	古谷 俊雄	九州支社長	森本 裕朗
関東建築支社長	高瀬 伸利	海外支社長	松本 章

### 支店長

札幌支店長	安藤 暁夫	関西支店長	塚田 昌基
東北支店長	鳴石 亨	中国支店長	黒田 強
北陸支店長	伊藤 裕之	四国支店長	川崎 邦彦
中部支店長	一色 真人	香港支店長	林 謙介

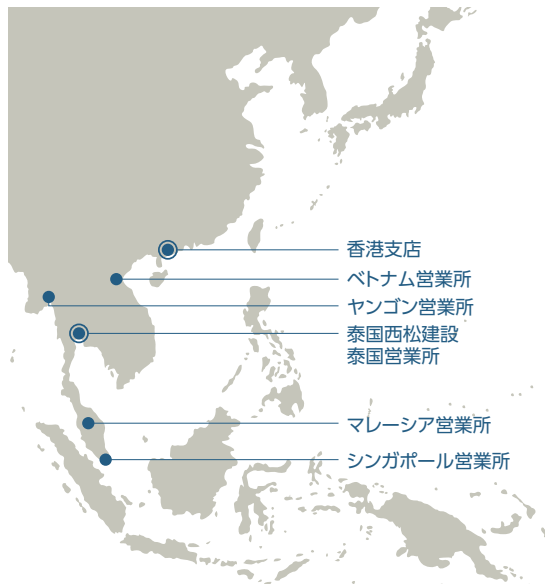
※取締役、監査役、執行役員、支社長、支店長については2013年6月末現在

## 組織図



※2013年4月からの体制

## 海外事業所



## 西松のあゆみ

1874

- 1874 ◆ 創業
- 1914 ◆ 西松工業所となる
  - ◆ 宮崎線第12工区を単独で着手
- 1916 ◆ 西松組と改称
- 1929 ◆ 合資会社となる
- 1931 ◆ 本社を東京へ
- 1946 ◆ 三沢米軍基地工事着手

1937 ◆ 株式会社西松組設立

- 1939 ◆ 創業25周年
- 1944 ◆ 東京支店、大阪支店を開設
- 1947 ◆ 西松組職員組合結成
- 1948 ◆ 商号を西松建設株式会社と改称
  - ◆ 東北支店(仙台市)開設

1950

1951

1952

1953

1954

1957

1958

- ◆ 機械化施工による経営の刷新
- ◆ 建設省能力審査土木部門第1位になる
- ◆ 四国支店(高松市)開設、熊本支店(1926年3月開設)を九州支店(福岡市)と改称
- ◆ 渋谷区神宮前に技術研究所を開設
- ◆ 中部支店(名古屋市)開設
- ◆ 関門国道トンネル開通
- ◆ 門司口トンネル、古城立坑完成
- ◆ 地下鉄丸ノ内線池袋~御茶ノ水間完成
- ◆ 藤本発電所(荒瀬ダム)完成
- ◆ 日本初のロックフィルダム
- ◆ 石淵ダム完成
- ◆ 多摩川工場開設
- ◆ 沖縄米軍基地工事着手
- ◆ 硫黄島米軍基地工事着手



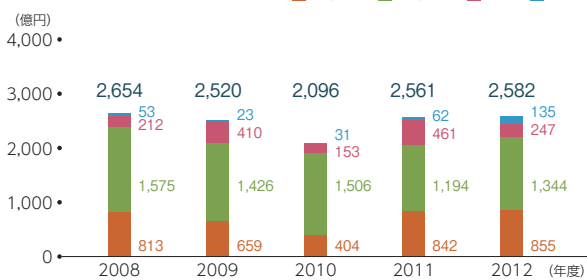
石淵ダム

水豊ダム

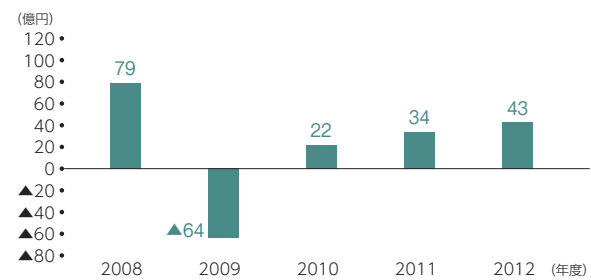


# 業績ハイライト

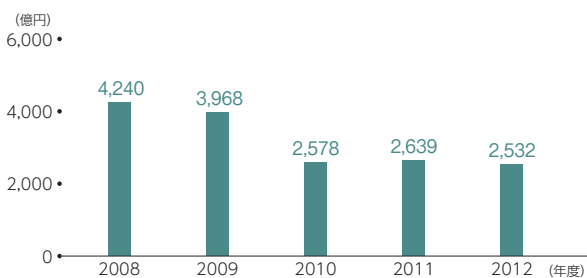
## ●受注(連結)建設事業



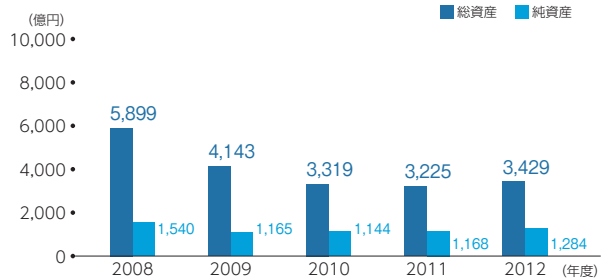
## ●経常利益(連結)



## ●売上高(連結)



## ●総資産・純資産(連結)

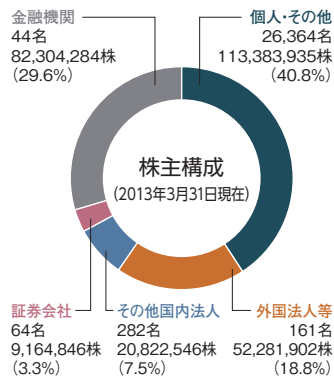


## 株式の状況

株式の状況と株主構成は下表のとおりです。

### ●株式の状況(2013年3月31日現在)

証券コード/1820  
 上場証券取引所/東京証券取引所  
 発行可能株式総数/800,000,000株  
 発行済株式総数/277,957,513株  
 単元株式数/1,000株  
 株主数/26,915名  
 株主名簿管理人/みずほ信託銀行株式会社  
 事業年度/毎年4月1日から3月31日まで  
 期末配当基準日/毎年3月31日  
 定時株主総会/毎年6月



※業績および株式に関する詳細は当社ホームページ「IR情報」<http://www.nishimatsu.co.jp/ir/> をご覧ください。

## 配当状況

### <配当政策>

配当政策については、業績や内部留保の水準を総合的に勘案しながら、株主の皆様へ安定的かつ継続的な利益を還元していくことを基本方針としています。

### <配当状況>

過去3年間の配当状況は下表のとおりです。

### ●配当状況

	1株あたりの配当金	
	期末	年間
第76期(2012年度)	4円	4円
第75期(2011年度)	4円	4円
第74期(2010年度)	4円	4円

1960 東証第1部に株式上場 ◆ 本社ビル完成 ◆

1961 ◆ 東証第2部に株式上場 ◆

1962 ◆ 東京建築支店開設 ◆

1963 ◆ 松栄不動産株式会社を設立(連結子会社) ◆

1964 ◆ 札幌支店開設 ◆ 中国支店(広島市)開設 ◆

1965 ◆ 平塚製作所開設(多摩川工場移転) ◆

1966 ◆ 仙台ホテルビル完成 ◆ 名神高速道路全通 ◆ 東京都神谷町下水道を日本初の機械掘シールド工法で施工 ◆

1972 ◆ 横浜支店開設 ◆

1973 ◆ 山陽新幹線備後西工区トンネル完成 ◆

1974 ◆ 千葉支店開設 ◆ 迎賓館和風別館完成 ◆

1975 ◆ 新東京国際空港貨物ターミナルB棟をリフトアップ工法で施工 ◆

1976 ◆ 超高層松竹東劇ビル完成 ◆

1977 ◆ 西松建設創業百年史発刊 ◆ 超高層新呉服橋ビル完成 ◆

1978 ◆ 迎賓館和風別館完成 ◆

◆ 都営地下鉄浅草線金杉橋工区を日本初の凍結工法で施工 ◆

◆ 新宿西口広場・地下駐車場完成 ◆

◆ 日本初の大口径泥水式シールド工法で京葉線羽田トンネルを施工 ◆ 土質学会賞受賞 ◆

◆ 超高層松竹東劇ビル完成 ◆

◆ ビル建築におけるMIN免震工法を開発 ◆

◆ 新呉服橋ビル ◆

◆ 香港支店開設 ◆

◆ 泰国へ進出 ◆

◆ 香港ロアシンマンダム完成 ◆

◆ ナコンパトナムハイウェイ完成 ◆

◆ ロアシンマンダム ◆

会社概要



## 土木事業



快適な環境づくりは我々技術者の使命です。活力と魅力にあふれた生活空間の構築を目指して、日々社会資本の整備に貢献していきます。

土木技術を日々研鑽し、社会基盤の充実に取組んでおり、国内では新東名高速道路、海外では香港雨水排水トンネルなど数々の大型プロジェクトを完成させるとともに、大規模除染業務をはじめとする震災復旧・復興に全力で取組み、国内外で「技術の西松」として、各方面から非常に大きな評価をいただいています。これまで培ってきた技術をもとに、これからも新技術の開発・導入を進め、「人々の生活」さらには「地球環境」にとっても快適な環境づくりを目指します。

## 建築事業



ソフト・ハードの両面にわたる技術を追求するとともに、その成果をフィードバックし、ノウハウとして蓄積することで、「人」と「自然」と「建物」が調和できる安心・安全な未来社会をつくっていきます。

インテリジェントビル建設からマンション建設に至るまで、あらゆる分野で培ってきた建築技術とともに、さまざまな先端技術を有効活用し、ソフトとハードの両面で「人」と「自然」と「建造物」の調和を目指し、環境性能の高い安心・安全なまちづくりを目指します。

## 海外展開

半世紀にわたる実績と経験を活かし、ローカル企業・ローカルスタッフとの協力のもと、各国の交通・環境等のインフラ整備および日系企業の海外進出に貢献しています。

### 香港

当社の海外事業の原点である香港では、1962年の大型ダム建設を機に、発電所、地下鉄、高速鉄道、道路トンネル、新空港、港湾整備、工場、高層住宅など、さまざまなプロジェクトを手掛けています。近年は地下鉄工事を中心に、半世紀にわたる香港での経験と技術力を活かした継続的な事業展開を進めています。



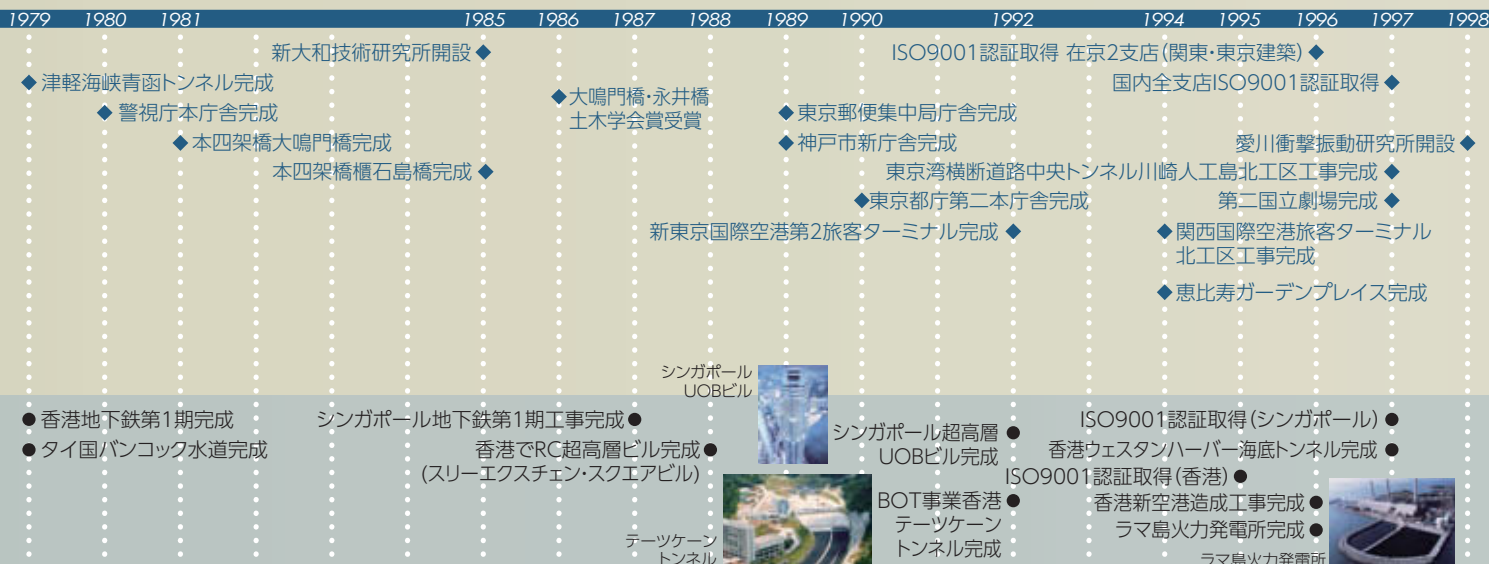
### シンガポール

シンガポールでは、1984年の地下鉄工事受注を機に、土木部門では主要トンネルや地下鉄駅舎、建築部門では超高層ビルやコンドミニアムなどを手掛けてきました。現在も香港と同様、地下鉄工事のプロジェクトを継続して手掛けており、今後も大型土木工事を中心とした展開を目指しています。



### その他

東南アジアで展開している、そのほかの海外事業に関しては、マレーシアではインフラ整備を、ベトナムにおいてはODA工事を中心に手掛けてきました。近年は工業団地整備や日系工場建設にも力を入れています。タイでは、1963年に現地法人を設立し、設計・施工による日系工場建設を中心に継続的に活動しています。







土木  
工事



**久木野尾ダム**  
竣工：2012年5月  
所在地：大分県杵築市



**綾瀬スポーツ公園**  
竣工：2013年2月  
所在地：神奈川県綾瀬市



**筑後川下流農業水利事業佐賀西部吐水槽**  
竣工：2012年5月  
所在地：佐賀県佐賀市



**東名高速道路 東名足柄橋補修**  
竣工：2013年3月  
所在地：静岡県駿東郡小山町



**岸谷生麦線(国道1号行き)トンネル**  
竣工：2012年8月  
所在地：神奈川県横浜市鶴見区



**京都第二外環状道路西山トンネル**  
竣工：2013年1月  
所在地：京都府京都市西京区



**高瀬橋PCけた製作・架設**  
竣工：2012年11月  
所在地：東京都あきる野市



**胆沢ダム洪水吐き**  
竣工：2012年12月  
所在地：岩手県奥州市



建築  
工事



**武蔵小杉駅南口地区西街区第一種市街地再開発事業**

竣工：2013年2月  
所在地：神奈川県川崎市中原区  
用途：共同住宅・公共図書館・商業施設・駐車場  
延床面積：65,459.27㎡



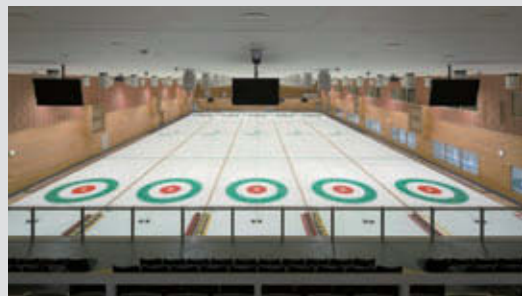
**小牧市新庁舎**

竣工：2012年7月  
所在地：愛知県小牧市  
用途：市庁舎  
延床面積：17,375.62㎡



**沖縄科学技術大学院大学研究棟**

竣工：2012年5月  
所在地：沖縄県国頭郡恩納村  
用途：研究施設  
延床面積：14,073.48㎡



**北海道銀行カーリングスタジアム**

竣工：2012年9月  
所在地：北海道札幌市豊平区  
用途：カーリング場  
延床面積：3,375.12㎡



**本町五丁目地区第一種再開発事業**

竣工：2013年2月  
所在地：新潟県上越市  
用途：共同住宅・店舗・駐車場  
延床面積：18,605.46㎡



**東京かねふく めんたいパーク**

竣工：2012年11月  
所在地：愛知県常滑市  
用途：食品工場・販売・展示付き複合施設  
延床面積：3,847.07㎡



**PHAVタンロンII拠点(パナソニックTL2)**

竣工：2012年12月  
所在地：ベトナム社会主義共和国フエン省  
用途：工場・研究開発施設  
延床面積：23,932.00㎡



**上越メガソーラー発電所**

竣工：2013年3月  
所在地：新潟県上越市  
用途：メガソーラー発電所  
規模：2,334KW、155W×15,060枚





スタンレーコンプレックス



ラマ島発電所

# 「ホンコン・ドリーム」と呼ばれた国家プロジェクト参画から半世紀。 西松の海外進出の軌跡は、 香港の歴史とともに。

1956年、当時の社長・西松三好氏は年頭所感において海外進出の意志を力強く表明しました。

厳しい時勢から、途絶えていた海外への事業進出。

戦後初の海外工事となったのは、香港の国家的なプロジェクト「ロアシンマダム」です。

その原動力となったのは、西松マンたちの卓越した技術力と“国家の礎をつくる”という揺るぎない使命感でした。



Partners for past 50 years, and Partners for years to come

～香港におけるあゆみ～

- 1962 香港営業所設立  
ロアシンマダム
- 1971 葵涌コンテナターミナル埠頭
- 1973 香港電力ラマ島発電所

- 1987 スタンダードチャータード銀行
- 1988 テーツケートンネル
- 1990 香港電力第2ケーブルトンネル
- 1992 香港新空港用地造成
- 1993 西部海底トンネル

- 2003 スタンレーコンプレックス
- 2007 西雨水トンネル
- 2009 地下鉄西港線
- 2011 地下鉄南港線および  
觀塘延伸線



西部海底トンネル



香港新空港



## パートナーの皆様と歩んだ50年。これからも、地域社会へのさらなる貢献を誓って

### 国家プロジェクト受注から始まった香港支店

1962年、香港支店設立と時を同じくして、「ロアシンマンダム」を受注しました。「これは、あなたが命を捧げた、あの香港の水です。でも、その水も、まるで百年もの昔からあったように、いずれはあなたの名を忘れるでしょう」。香港ロアシンマンダムを題材にしたNHKドラマ、「ホンコン・ドリーム」の中のセリフです。深刻化する水不足の中で、ロアシンマンダムの建設は、香港政府が実施した国家プロジェクトでした。当時は、香港と言えども遠い異国の地であり、民族習慣や気候風土の異なる所での工事は、想像を絶するものでしたが、西松マンの熱い想いが香港の礎を築きあげました。

以降当社は、50年にわたり香港を代表するインフラ工事に携わってきました。コンテナターミナル4埠頭、香港地下鉄9駅およびトンネル工事、香港電力ラマ島発電所や送電施設、九龍半島と香港島を結ぶ西部海底トンネル、そして香港新国際空港、テーツケートンネル、スタンダードチャータード銀行ビルなど、事業範囲は電力・道路・空港・鉄道・港湾・上下水道・住宅と香港の基幹インフラを網羅するものです。

香港において西松は「サイチョン」と呼ばれ、一般に広く知られるようになりました。



ロアシンマンダム



テーツケートンネル

### 新たな50年を、香港のさらなる発展のために

ひとつのダム工事から築き上げられた50年の歴史。現在は、地元住民の方々のみならず観光客の「足」とも言える地下鉄工事を3件、同時に施工しています。香港島の西部へ路線を延長する「西港線」、これまで地下鉄の無かった香港島南部へ向かう「南港線」、そして九龍半島の中央部を走る「<sup>クワン</sup>観塘延伸線」です。当社は香港地下鉄建設の第1期工事から参画しており、香港の経済成長の一端を担ってきました。

今後も地元のパートナーの皆様とともに、香港の発展に寄与していきます。



南港線



観塘延伸線



西港線

### 2013年はタイ進出50周年

1963年、日本・タイ両国政府の支援を受け、「泰国西松建設」の前身となる合併会社「日泰建設」が設立され、当社のタイにおける歴史が始まりました。この社名は、当時のタイ首相から日本とタイの友好を祈念して提案されたもので、戦後タイへ進出した最初の日系建設業者となりました。香港のロアシンマンダムに続く海外工事となったナコンパトムハイウェイ建設工事を皮切りに、その後50年、土木では地下鉄・水道・灌漑等、建築では工場・商業ビル・ホテル等、数多くの足跡をタイの地に残してきました。今後も長年の経験と豊富な人材を活かし、タイの発展に貢献していきます。

 Thailand



Bang Kok

### 泰国西松におけるCSR経営の推進

泰国西松建設では設立50周年の節目にあたり、数々の社会貢献活動を行っています。マンग्रープ植林、寺院清掃といったスタッフが協同で行う活動を通じて、社内の協調や団結の意識を高め、「善行は成功に繋がる」という価値観を共有することに生かされています。

泰国西松建設(株) 取締役

シティチャイ





すべては、未来の子どもたちの笑顔のために—。

## 地域の皆様とともに進めた 次世代に継承できる“まちづくり”。



福岡県新宮町。いま、ここでは駅(新宮中央駅)を核として

「次世代に継承する居住・交流拠点」をコンセプトにした新しいまちづくりが進められています。

西松建設は、中心市街地整備の要である「沖田土地区画整理事業」において、  
工事施工はもちろん、事業推進や施設建設などを担当。

2006年より地域の皆様とともに取組んだ、新しい都市機能の骨格づくりを無事成し遂げました。

### 「新宮都市計画事業 沖田土地区画整理事業」とは

福岡県糟屋郡新宮町は、福岡市の北東部に位置し、風光明媚な新宮海岸や立花山など、自然に恵まれた暮らしやすい町です。ここで施行されている「沖田土地区画整理事業」は、かつて洪水調整機能を果たしてきた水田地区を、新たなまちづくりニーズに伴い、都市的な土地利用に転換を図る、「まち拠点づくり」を担うものです。新たに整備されたJR鹿児島本線の新駅(新宮中央駅)の東側に広がる約30.6haの事業地区内に、都市インフラと都市計画道路が整備され、それによって区画された事業敷地には、広大なオープンスペース(沖田中央公園)と下水浄化センター(アクア新宮)をまちの骨格(中心)として、商業施設、共同住宅、戸建住宅、医療施設などの利便機能が集約されています。今まさに「沖田土地区画整理事業」により、福岡市の都市圏である新宮町の中心ゾーンに最も洗練されたまちが誕生しているのです。

#### 新宮都市計画事業沖田土地区画整理事業

- ・施行者:新宮町沖田土地区画整理組合
- ・施行面積:約30.6ha
- ・事業費:87.20億円
- ・地権者数:118名
- ・施工期間:2006年度~2013年度
- ・減歩率:43.92%
- ・計画人口:2,500人



沖田土地区画整理事業  
完成予想パース





## 西松建設だからできた「まちづくりへの参画」という地域社会への貢献

### 事業の推進・支援に活かされた 西松建設の事業ノウハウ

本事業については、施行期間以前から、行政や地元住民の皆様が度重なる話し合いを持ち、着々と準備を進め、そして2001年には準備組合が設立されるなど、その動きが本格化しました。そういった中、西松建設は2006年から「業務代行者」として、それまで培った事業ノウハウを活かし、組合に対して担当者を派遣するなど、本事業の推進に数々の協力をさせていただきました。また、本事業ではまちづくりにおいて、景観と利便性の高い都市機能に配慮した「デザインガイドライン」の設定や、事業後の運営段階において、まちづくりの基本コンセプトを実現する「エリアマネジメント」の考え方を導入しています。この考え方にもとづき、大規模商業施設（イケアほか）の誘致など、都市機能の骨格がつくられたわけですが、こういった点においても、当社は事業経験にもとづいた、さまざまなお手伝いをさせていただきました。

### 土地造成からインフラ整備、商業施設まで あらゆる工事を担当

当社では、本事業の施行にあたり、建設会社としてインフラ整備を担いました。約30.6haという広大な

土地の造成、都市計画道路整備や上下水道などの都市インフラ整備です。また、整備された区画には、さまざまな建造物が整備されますが、当社では大規模商業施設（写真①）や共同住宅（写真②）、医療施設（写真③）の工事を手掛け、地域に配慮した施工を心がけつつ、各施設とも現在無事竣工しています。

### 西松建設と地域との関わり

事業推進・支援や工事施工など、当社は「沖田土地区画整理事業」において、さまざまな役割を果たしてきました。しかしそれだけが沖田地区との関わりではありません。本事業に参画してからは、地元祭事や各種イベントに会社をあげて参加、または協力をしてきました。特に、新宮中央公園が整備されてから毎年開催される駅伝大会には、いまでも西松建設九州支社のツワモノが参加し、地域との交流を図っています。また、この地区の新しい行政区立ち上げにも携わり、地域の発展に貢献できる体制を整えています。

このように、西松建設は事業参画のみならず、地域の発展・振興という観点で地域に関わり、根付いています。



### まちづくりにおける西松の役割

当社が業務代行者となった2006年から、私は沖田土地区画整理事業の一員として事業推進に関わってきました。当初、私が感じたのは、地元住民の皆様と行政がともに熱意を持って、まちの将来について積極的に考え、事業を推進していることでした。事業者としても、皆様のそういった想いに応えられるよう、できる限りの協力をしてきました。沖田地区とは、今後も長いお付き合いになると思います。ともに協力して、良いまちづくりに貢献していければと考えています。

沖田土地区画整理事業担当 開発・不動産事業本部 都市開発部 開発営業2課 國定 慶典



### 国内最大級の地中熱利用空調設備の導入

近年、消費者の環境意識向上や、震災に伴う電力不足などを受け、太陽光発電、風力発電などの「再生可能エネルギー」が注目され、その利用を促進する取組みが活発になっています。

このような状況の中、沖田土地区画整理事業地区内で当社が施工した「イケア福岡新宮」では、業務用としては国内最大級の「地中熱」を利用した空調システムが導入されています。

一般的に、地中の温度は年間を通じて安定しており、冷暖房の熱源として利用することが可能です。今回導入した「地中熱利用設備システム」は、屋外平面駐車場の地中に「熱交換器」を埋設し、そこに水を循環させて地中の熱を回収することで、空調熱源として利用するものです。このようなところでも、西松建設の建設技術や環境技術が活かされています。



地中熱空調システムを導入した九州初進出のイケア福岡新宮



地中熱空調システムのイメージ



# すべてのステークホルダーの皆様との「Win-Winの関係」実現のためのCSRマネジメント

2010年度から始まった当社のCSR経営も早3年を経過するなか、確固たる理念にもとづくCSR活動を着実に実践してきました。中長期的な目標設定と活動を基軸としたCSRマネジメントを継続し、ステークホルダーの皆様信頼される企業を目指します。

## CSR経営方針

西松建設では、一人ひとりがCSRの実践者であり、日常業務の中ですべてのステークホルダーを意識して行動することを目指します。自由闊達で風通しの良い社内風土のもと、会社と社員が互いに信頼しあい、ステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を実現する『すべての人を大切に想う』CSR経営を実践していきます。

### ～CSR経営の5つの取組み～

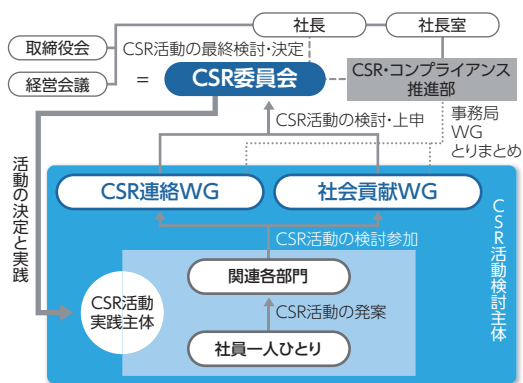
1. お客様一人ひとりの想いを大切に、お客様の求める夢の実現に向け、豊かな生活環境を創造します。
2. 社員をはじめ、当社に関わり働くすべての方々とその家族が、健康で充実した生活を送り、一人ひとりが遺憾なく能力を発揮でき、働く誇りを持てる職場を実現します。
3. 社会からの期待や要請を認識して、コンプライアンス精神に則った勇気ある行動を実践し、社会常識と乖離しない健全な企業活動を推進します。
4. 次世代の人を想い、持続可能な社会に貢献するため、よりよい環境の創造と保全に向けて積極的に行動します。
5. 国内外を問わず、地域社会の人々と密接なコミュニケーションを図り、企業として社会貢献に積極的に取組むとともに、社員一人ひとりの取組みを支援します。

社会的課題に対応した7+1のCSR活動ポイント	10年後のあるべき姿 活動目標<N-Visioin2020>	2012年度の 主な活動実績
I<建設・顧客> 良質な建造物による価値創造 顧客満足の提供	◎最高水準の施工・サービス品質の追求 ◎すべてのお客様の最上満足度の実現	一体的品質マネジメントの検討体制整備 お客様アンケートの定量化と有効化の取組み
II<安全・健康> 安全な産業の実現 適正な労働環境整備	◎労働災害ゼロの実現 ◎長時間労働の解消と快適職場の実現	COHSMSの推進と安全意識の啓発 時短意識の醸成と代休取得の推進
III<雇用・人権> 働き続けられる職場づくり 公平・公正な雇用の創出	◎持続性確保に向けた人的資源への積極投資 ◎人材の定着に向けた社員満足度の向上	技術研修の継続実施と資格保有率の向上 従業員意識調査の実施と結果の検証
IV<ガバナンス> 適正な企業活動 適切な情報開示	◎説明責任に対応したコーポレートガバナンスの確立 ◎業務と組織の見える化による信頼確保 ◎コンプライアンスの徹底 ◎徹底したリスク管理による事業の継続性と信頼確保	社外チェックと収益力強化を両立した体制の確立 業務分掌や職務権限にもとづく組織的業務執行 コンプライアンスに関する啓発実施と意識向上 リスク管理および体制の見直し・充実
V<環境> 地球資源の次世代への継承 循環型社会への対応	◎「環境配慮企業宣言」に向けた取組み強化 ◎環境ソリューション事業の積極展開	環境マネジメント体制の強化 環境ソリューション事業に向けた体制・技術の整備
VI<地域・社会> 地域・社会への貢献 大規模災害への対応	◎企業市民としての積極的社会参加 ◎事業スキルを活かした貢献	社会貢献活動の推進と活発化 防災拠点機能整備に関する検討実施
VII<産業・サプライチェーン> 建設産業の発展 協会会社等との適正な関係構築	◎産業界リーディングカンパニーへ向けた挑戦 ◎適正なCSRサプライチェーンの構築	建設産業の魅力の発信 N-NET活動の活性化
<コミュニケーション> CSR発展に向けたコミュニケーション 社会に対するCSRの説明責任	◎CSR活動の積極的発展 ◎CSR活動の適切性確保	ステークホルダーダイアログの実施 CSRマネジメントによるPDCAの確保



### ●CSR活動検討・推進体制

CSR活動の検討・推進体制としては、社長を委員長とし、土木事業本部、建築事業本部、開発・不動産事業本部、管理本部の4本部長、共通部門の担当役員および社長室からなる「CSR委員会」を最高検討・決定機関としています。また、関連各部門の担当者をメンバーとする「CSR連絡WG」「社会貢献WG」を設置して、具体的なCSR活動を検討するとともに、「すべてのステークホルダーの皆様とのWin-Win」を基本方針の主軸として、当社のCSR活動の実践者である社員一人ひとりが取組むCSR活動を推進しています。



※2011年度までのCSR推進室は、2012年4月の組織変更にもとない、コンプライアンス推進室と統合し、社長室CSR・コンプライアンス推進部となりました。

### ●2012年度のCSR活動

2012年度は、「西松CSRレポート2012」の作成・発行をはじめ、各種WGにおけるCSR活動や社会貢献活動の検討・実施など、多くの活動に取り組んでいます。「N-Vision2020の具現化」と位置づけ年度当初に定めた、中長期および単年度の取組みと目標(Plan)にもとづく活動実施(Do)とチェック(Check)、そして年度総括にもとづく次年度目標設定(Action)など、CSR活動に関するPDCAを一巡させ、CSR経営の有効性と適切性を保持・発展させる活動も推進してきました。また、継続的啓発活動として、社内を対象とした「CSR研修」の実施や、CSRの実践者となるべき社員における活動モチベーションの度合いを測る、「従業員意識調査」も実施しています。なお2010年に定めた“5カ年重点目標”に向けた取組み状況については、KPIに従って、「ガバナンス」においては、GRIガイドラインを参考とした開示項目数は同業他社と比較しても、昨年同様最も多いレベル(10項目中8項目)となりました。また「環境経営」については、(株)日経リサーチ社による“環境経営度指標ランキング(非製造業、建設業)”で13位(2011年度14位)に、さらに「人材育成」では、国土交通省による経営規模評価結果等において、土木一式・建築一式に包括される“一級資格数”の社員数に対する割合が69.06%(2011年度68.44%)となっています。

#### 外部有識者※による第三者評価

アンケートへの個別対応と並行して、本質的な課題への対応を予防処置として実施し、品質向上につなげてください。定量化された結果の開示が今後期待されます。

労働災害の低減が達成できなかったことは残念です。事故ゼロは永遠のテーマですが、事故防止の努力にゴールはなく、現場の隅々まで安全衛生水準を高めることが必要です。

従業員意識調査の実施は大きな前進です。結果の開示と分析による有効な施策検討が期待されます。技術系資格取得率はKPIとして開示されるとよいでしょう。

信頼回復の一環として業界トップクラスのガバナンス体制と充実した情報開示による透明性が確保されました。この体制の運用による有効性の維持が求められます。

環境経営度No.1に向けてはこれまでとは違った施策も必要です。事業活動による環境影響を確実に把握・改善させながら、技術革新による価値創造が求められます。

東北の「ひまわりプロジェクト」が継続されており、西松建設らしい地域・社会に寄り添った貢献として今後も期待されます。海外での取組みも評価されます。

建設業において、品質向上や安全確保は協力業者とともに取組むことが必須です。公平公正な取引と、強固な協力体制のバランスが求められます。

社外有識者を招いたダイアログの開催は大きな前進と評価されるものです。重要なエンゲージメントの機会と位置づけ、必要に応じて軌道修正も検討ください。

#### 2013年度の主な活動計画

- 総合的な品質マネジメントの考え方の整理
- 有効性の高い新たなお客様アンケートの確立
- COHSMSの継続推進と重大災害の撲滅
- 適正な労働時間管理の推進と代休消化率の向上
- 技術研修の継続実施と資格保有率の向上
- 従業員意識調査結果にもとづく具体施策の立案・実施
- 現在の適正体制の維持と適切性の検証
- 内部統制システムの適切な運用
- コンプライアンスに関する継続的な啓発と意識の浸透
- リスクマネジメントのさらなる充実
- 強化された推進体制による環境施策の実施
- 環境ソリューション事業のさらなる推進と要素技術の確立
- 社会貢献活動の継続的推進
- 防災拠点機能整備に関する方策づくり
- 建設産業の魅力発信の継続
- N-NET活動の趣旨にもとづく適正化に関する検討
- ステークホルダー・ダイアログの継続実施
- CSRマネジメントによるPDCAの確保

※(株)サステナビリティ会計事務所

# 利用者の視点から品質を考えたすべてのお客様に満足いただけるモノづくりを通じた価値の提供

建造物とサービスを提供するにあたり、培ってきた確固たる技術と経験にもとづき、常にお客様の目線に立ったクオリティーを実現することで、建造物という社会資本の価値向上とお客様の満足による信頼獲得に努めます。

## ビジョン達成に向けて

最高水準の施工・  
サービス品質の追求

日々の活動の中で施工品質を確保し、必要な技術開発を推進しました。品質レベルを一層高めるべくマネジメントの考え方を再整理する取組みも開始しました。

すべてのお客様の  
最上満足度の実現

品質やサービスをお客様目線で考え、「お客様アンケート」の定量化・有効化や、技術提案推進、アフターサービスの充実化検討などの取組みを開始しています。

## 西松建設品質方針

西松建設はCSR経営方針に基づいたN-Vision2020実現のため、品質マネジメントシステムの運用・改善に努め“建設・顧客”分野の目標達成に向け活動します。

- I. 高い品質の建造物・サービスの提供  
技術の開発・高度化を推進し、社会の要求・信頼に応えた高い品質の建造物とサービスを提供します。
- II. お客様の満足度向上  
よりよい企画の提案、高い品質の建造物・サービスの提供及びそのサポートの充実により、お客様をはじめすべてのステークホルダーの満足度向上に努めます。

2012年7月2日制定

## ●建造物の品質確保・向上のために

### 【土木事業】

工事入手時において、専門技術者で構成する施工技術委員会の指導のもと、施工検討会や現場パトロールなどを実施し、さらなる品質確保・向上に取り組んでいます。また官庁工事に関しては、工事成績＝顧客満足および品質評価と位置づけ、工事成績点の向上に向けたさまざまな取組みを実施しています。そのほか、過去事例にもとづき、社内研修や検討会などを通じて品質確保・向上の手法を水平展開しています。

### ●顧客満足に向けた「お客様アンケート」の実施

顧客満足は企業経営の根幹であり、当社品質方針にも「お客様の満足・要望に応えること」を掲げています。

特に「建築事業」では、これまでの品質マネジメントにおける品質目標にも「顧客満足度向上」を取上げ、その状況把握のツールとして民間のお客様に「お客様アンケート」のご協力をいただいています。建造物の出来映え、営業・設計・現場等各部門の対応や活動などについて、工事中と竣工時の2回にわけて評価いただくことにより、お客様にご満足いただくための改善に結びつけています。

### 【建築事業】

お客様の要望に則した良質な建造物の提供を趣旨として、独自の「品質管理基準」の改定と同時に、組織的なチェック体制を整えました。各支社に品質管理を担う部署を設置し、全現場における複数回の社内品質パトロールを実施し、品質確保を確実なものとしています。また、過去事例を反映し改定した基準にもとづく施工を徹底し、施工の各段階における建造物の品質確保・向上を図っています。

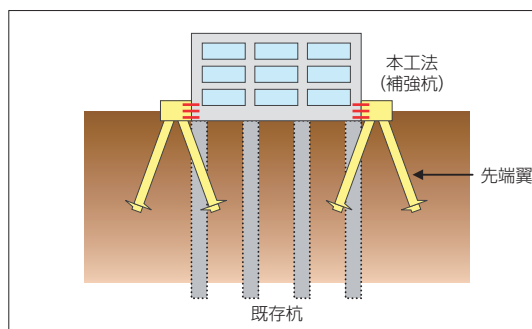
### ●天井耐震クリップ工法による建築物の安全性向上

天井耐震クリップ工法は、東日本大震災で破壊された天井に対して、本工法の安価で簡易な特徴が認められ、その復旧工事で多数採用されるなど、着実に実績を伸ばしています。2013年3月には(財)ベターリビングより建設技術審査証明を取得しました。今後は、在来工法天井の耐震対策技術として積極的に提案していきます。



## ●建物の礎「杭」の耐震化(回転貫入鋼管杭斜杭工法)

回転貫入鋼管杭斜杭工法は、既存建築物に対して鋼管杭を斜めに配置することで、建物の変形を抑え、杭に作用する地震力を減少させるものです。このたび、当工法が(財)ベターリビングより技術評定を取得しました。東日本大震災では、柱や梁など上部構造の被害がほとんどなくとも、杭に被害を受けたために、建物が傾いた例が見られましたが、杭の耐震補強対策は、ほとんど進んでいないのが実情です。今後は、こうした既存建築物の基礎杭の耐震補強ニーズに対して積極的に展開していきます。



## 新たなニーズへの対応

### ●サイテックファーム2012年10月スタート

玉川大学と当社は2012年1月より、「食の安心・安全」などの社会的課題の解決や消費者ニーズに応える新たな農業ビジネスモデルの構築を目的とした「産学連携事業」を進めてきました。2012年10月、玉川大学構内に新設された「Sci Tech Farm TN Produce」(サイテックファーム ティーエヌプロデュース)は、玉川大学が開発した「ダイレクト冷却式ハイパワーLED」を採用した植物工場です。このサイテックファーム内の植物生産システム「LED農園」によって生産されたリーフレタス「夢菜(ゆめさい)」は、2013年2月より小田急線沿線のこだわりのスーパーOdakyu OXにて販売を開始しています。



玉川大学構内に新設されたサイテックファーム



### ●植物工場システム「LED農園」の展開

植物工場システム「LED農園」は、産学連携事業の成果を農業ビジネスに展開する商品として、2013年度中に販売することを目指しています。この「LED農園」は完全人工光型、クリーンルームの植物工場で、「安心・安全」な野菜の生産を実現できます。西松建設グループでは、今後さらに「LED農園」の生産性、経済性の検証を行い、顧客のあらゆるニーズに応えるオーダーメイド型の野菜生産システムの開発を進め、事業展開を図っていきます。西松建設グループは、企業の新規事業、雇用の創出、ならびに地域農業の活性化に寄与する農業ビジネスを構築し、「新しい農業の形」を発信し続けていきます。



## TOPICS

### サイテックファーム(LED農園)で「JGAP認証」を取得!!

「Sci Tech Farm TN Produce」(サイテックファーム ティーエヌプロデュース)は、NPO法人日本GAP協会から、2013年3月28日付で「JGAP認証」を取得しました。これは、東京都で初のJGAP認証農場となります。

※JGAPについては、<http://jgap.jp>をご参照ください。





## “最高水準の施工・サービス品質の追求”と“すべて

### ●土木事業:伊達市除染業務での 高度な施工管理による安心・安全の確保

福島県伊達市は、福島第一原子力発電所から北西へ約55kmに位置しており、東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故で放出された放射性物質が広範囲に飛散し、多くの市民が不安な日常生活を強いられています。伊達市発注の本業務は、戸建住宅、公共施設、市道、隣接する森林など、生活圏の除染を実施し、放射線量の低減を図り、市民の不安を一刻も早く解消することを目的としています。

除染業務は、膨大な人員と資機材を投入するため、確実な管理が必要です。そのため、本業務実施にあたっては、さまざまな管理システムを開発しました。①QRコードを用いた除去物運搬用フレキシブルコンテナパックのトレーサビリティ管理、②QRコードを用いた作業員の勤怠管理、③携帯端末を用いた資機材運搬管理、④GISを用いた作業の進捗を「見える化」した進捗管理などです。これら管理システムを運用することで、安全、確実かつ効率的に除染業務を実施できました。

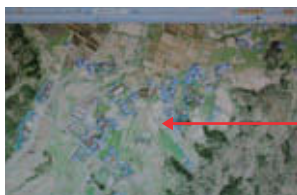
以上のように社員一丸となった努力と技術力を結集し、発注者、地元住民の安心・安全に寄与してきました。



QRコード付き安全チョッキ



QRコードのデータ読み取りの様子



- ・位置情報
- ・作業数量
- ・進捗状況
- ・他各種情報

GIS管理画面(例)

### ●土木事業:自走式斜材外観調査ロボットによる 改修工事の精度向上と安全性確保

東名足柄橋(「2012年度の主な竣工実績」にて紹介)は、大井松田ICと御殿場IC間に架かる、1991年に建設された斜張橋です。2012年度に当社が実施した改修工事では、東名足柄橋の改修に合わせて、重要な構造部材である斜材の外観調査を実施する必要がありました。これまでの斜材の外観調査では、望遠鏡を用いた遠望目視が一般的でした。しかし、遠望目視による調査では、比較的大きな損傷以外は確認できないなどの課題がありました。

そこで当社では、斜張橋の斜材を“精度良く”“安全に”調査するため、自走式の斜材外観調査ロボット「コロコロチェッカー」を開発しました。「コロコロチェッカー」には、斜材外観全周をくまなく調査できるよう、4台のCMOSカメラを搭載しており、その画像は地上のモニターでリアルタイムに確認できるとともに、動画としても保存が可能であるため、記録した動画から損傷のサイズも計測できます。

改修工事では、「コロコロチェッカー」を用いることにより、東名足柄橋の80本の斜材を約1カ月間という短期間で、高精度かつ安全に調査し、これまで調査ができなかった部分まで詳細な観察・確認するなど、公共インフラの確実な延命に貢献しました。



自走式斜材外観調査ロボット  
「コロコロチェッカー」



「コロコロチェッカー」による斜材外観調査の様様

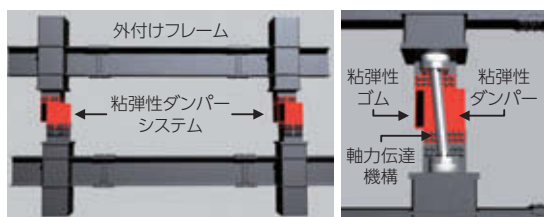


# お客様の最上満足度の実現”を目指して～

## ●建築事業:BiDフレーム工法の本格展開 (実証施工)

2012年のレポートでもご紹介した「Built-in Damper (BiD) フレーム工法(外付けフレーム制震補強工法)」。この工法は、(株)構造計画研究所と共同で開発したもので、2012年2月、(財)日本建築総合試験所の建築技術性能証明を取得しています。

本工法は、集合住宅の開口部(主にバルコニー)側や廊下側に、外付けの鉄骨造の柱梁フレームを構築して既存建物と一体化し、鉄骨柱の中間部分に「粘弾性ダンパー」と「軸力伝達機構」を有する制震システムを組み込むことで、地震時のエネルギーを吸収して既存建物の耐震性を確保するものです。この外付けフレームにより、従来工法で課題となっていた、室内工事のための居住者の一時退去や、補強後における開口部へのブレース設置(景観や採光の悪化)などが一挙に解決できる耐震補強工法となっています。



外付けフレームのイメージ

現在、こういった利点を実証するために、神奈川県横浜市内南区の当社社宅において、BiDフレーム工法による改修(実証施工)を進めています。この社宅には、現在でも社員とその家族が入居しており、まさに身をもって「居ながら施工」や「景観や採光の確保・保全」などの効果を立証することとなります。改修工事は2013年12月に完了予定です。今後の実証効果を詳細に分析・検証し、一日も早くステークホルダーの皆様へ安心・安全をお届けできるよう工法の完成度を高めていきます。



社宅改修前イメージ



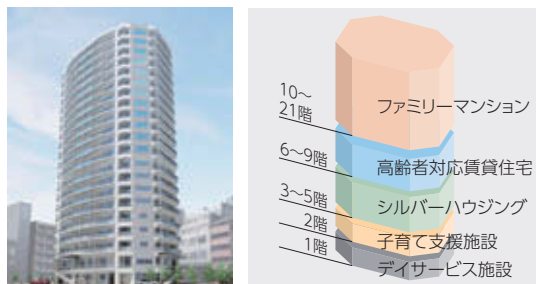
社宅改修後イメージ

## ●開発事業:広島市京橋町地区でのまちづくり参画

「京橋町地区市街地再開発事業」は、広島駅南口徒歩4分に位置する老朽化した市営住宅「京橋会館」の建替計画を契機として施行されている再開発事業です。そのまちづくりコンセプトは「多層世代居住の推進」。建物内には分譲マンションのほか、シルバーハウジング、サービス付き高齢者向け住宅、子育て支援施設等が計画されており、さまざまな世代が集い交わる「住み良いまち」の実現を目指しています。

当社は、この事業に「特定業務代行者」として参画しており、施行者や公営住宅を取得・管理する行政等の要望を踏まえ、策定された事業計画の中で「より良い施設」となるよう建築計画、構造、建築施工面での積極的な提案・工夫を行っています。また、高層階に計画される分譲マンションのデベロッパーとしての役割も担い、高度成長期に郊外に広がった住宅団地に居住されている方々の生活利便性を求めるニーズの受け皿となるなど、コンパクトシティの推進にも寄与しています。

まちの更新が遅れていた広島駅南口エリアも、本事業を契機として、次々と再開発計画が進行しています。国際平和文化都市「広島」の玄関口のさらなるポテンシャル向上の先導役として、地域の方々をはじめ、まちを訪れる方々の期待にお応えできるよう、引き続き尽力していきます。



施設建築物の完成予想パース 多層世代イメージ

京橋町地区第一種市街地再開発事業 事業概要	
所在地	広島県広島市南区
施行者	合同会社 広島京橋開発企業体
地区面積	2,067m <sup>2</sup>
延床面積	14,689m <sup>2</sup>
竣工年月	2013年11月予定
主要用途	デイサービス、子育て支援施設、市営住宅(シルバーハウジング)、高齢者住宅、分譲住宅
西松建設 参画内容	①特定業務代行者(保留床処分協力、テナント誘致協力等) ②住宅分譲事業者(2社JV)

# 意識の醸成とマネジメントシステムにもとづいた現場の安全確保・向上と永く安心して働ける職場環境づくり

社員や協力会社の皆様など、当社の企業活動を支える「働く人々」すべてを、当社になくてはならない財産ととらえ、安心・安全な職場環境整備を推進するとともに、お客様の安全面におけるリスク低減にも応えていきます。

## ビジョン達成に向けて

### 労働災害ゼロの実現

安全衛生マネジメントシステムCOHSMSにもとづく安全管理推進と啓発活動を実施しましたが、不注意や経験不足に起因するヒューマンエラーにより安全成績は昨年同等の結果となりました。

### 長時間労働の解消と快適職場の実現

長時間労働解消のため、適正な労働時間管理を推進しました。時短に対する意識は高まりましたが、代休取得は昨年同レベルの結果となりました。

## 西松建設の安全衛生基本方針

### 2013年度基本方針

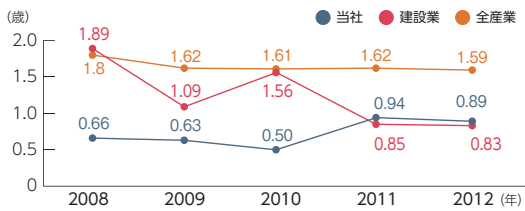
人命尊重の基本理念に基づく「思いやり運動」を基調とし、法令順守と関係する全ての人々に配慮した安全衛生施策を構築し、事業所で働く全ての人々が一致協力して、安全かつ健全で快適な職場環境を実現する。

## 安全・衛生

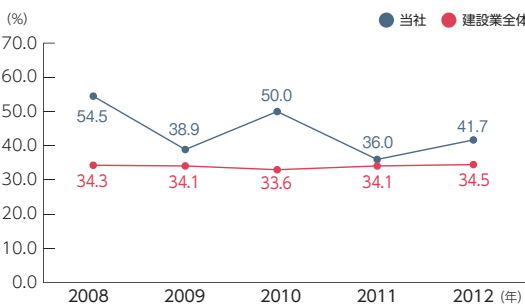
### ●労働災害

2012年度は、2010年度水準まで成績を戻すようさまざまな安全の取組みを行ってまいりましたが、ほぼ横ばいという結果に終わりました。また、災害に占める墜落・転落災害の割合は、41.7%と未だ建設業全体の割合より高い状態です。現場ではベテラン技能者が離職し、代わりに未経験・未熟練の技能者が増えており、今後この傾向が続くと考えられることから、繰り返し安全教育を通じて労働災害防止に努めています。

#### ●度数率



#### ●災害に占める墜落・転落災害の割合



※当社のデータは年度集計によるものです。

### ●声掛け運動

近年、不注意や経験不足に起因するヒューマンエラーによる災害が増えていることから、「声掛け運動」「指差呼称(しさこしょう)」「現地KY」「ヒヤリ・ハット運動」の4つの運動を展開してきましたが、2012年度からは特に「声掛け運動」に注力して活動しています。互いの挨拶はもちろんのこと、不安全行動に対して注意し合える環境づくりを目的としています。

また、継続的に取り組んでいる「墜落・転落災害防止」に向けた点検等についても注力することで、災害件数の減少と重篤な災害の減少を目指しています。



## 労働環境改善に向けて

### ●労働環境改善タスクフォース

労働環境、特に長時間労働の改善に取り組む主体的組織として、社内に「労働環境改善タスクフォース」を設置しています。社員の疲労蓄積の解消および心身をリフレッシュさせ「働きがい」「生産意欲」を向上させることで、企業価値の向上や競争力の強化につなげることを目的としています。社員のワーク・ライフ・バランスの実現に向け、長時間労働の原因究明を行い、業務の効率化等改善策を検討して総労働時間削減に取り組んでいます。

当初は1年間の有期的な活動としていましたが、継続的な取り組みの必要性を認識し、2年目を以降も活動を継続しています。2012年度も、社員の就労状況をモニタリングしつつ、「新たな現場運営スタイル」の確立を目指し、労働時間短縮のための「現場運営ルール五ヶ条」を展開したり、モバイル端末を活用した現場管理等の業務の効率化、現場写真整理業務の支社での一元管理によるワークシェアなどに取り組んでいます。



労働環境改善タスクフォース活動の様相

### 労働環境改善タスクフォースのスローガン

#### 新生西松に相応しい『ワーク・ライフ・バランス』の実現へ

- ・意識改革による休日取得の促進と時間外労働の削減！
- ・業務改革による効率化と労働時間の適正化！

「新生西松の現場運営スタイル」を確立し、優先的・重点的な時間の使い方は何かを社員一人ひとりが理解し「ワーク・ライフ・バランス」を実現するため、「個人の意識改革」と「会社の業務改革」に取り組む。

### ●ワーク・ライフ・バランスの推進

業務の効率化等による長時間労働の解消だけでなく、「育児・介護休職制度」や有給休暇・代替休暇を半日単位で取得できる制度の導入など、社員が安心して働ける環境整備により、社員のワーク・ライフ・バランスを推進しています。ワーク・ライフ・バランスの実現は、社員一人ひとりの生産性の向上、そして「企業価値の向上」や「競争力の強化」につながると考えています。

### ●メンタルヘルス

2006年の労働安全衛生法改正に伴い、面接指導体制の確立やメンタルヘルス相談窓口の設置を行い、長時間労働者への対策を講じています。さらに私傷病による休職者の復職支援のための規程を定め、特にメンタルヘルスの症状により休職している社員が、スムーズに復職するためのしきみを運用しています。今後はラインケア・セルフケア教育の充実を図り、メンタル不調の予防に注力していきます。

## TOPICS

### モバイル端末の有効活用による業務効率化の取り組み

2011年度から、施工現場の管理にモバイル端末を活用することで業務を効率化し、建設産業全体の懸案である“労働環境の改善”とともに、施工品質の確保・向上につなげる取り組みを進めています。2012年度からは、国内のモデル現場において、その有効性を確認するための実証実験を開始し、効果を検証しているところです。当社ではこの取り組みを、ビジョン達成だけでなく、企業の生産力・収益力アップ、最終的にはお客様からの信頼につながる重要な事項と位置づけ、継続しています。





# 適正な体制と人材開発にもとづく、誰もが働き続けたいくなる会社づくり

当社では、会社の今そして将来を支え担う社員を、会社にとっての必要不可欠な財産と位置づけています。全社員が熱意と意欲を持って働き続けられる職場環境づくりと、社員一人ひとりの自己実現に向けた支援を推進します。

## ビジョン達成に向けて

### 持続性確保に向けた 人的資源への積極投資

2010年度から始まった2年次、6年次の技術研修が定着しました。業務に有用な資格取得も支援・推進し、社員が保有する技術資格数も順調に増えています。

### 人材の定着に向けた 社員満足度の向上

現況の社員におけるロイヤリティやモチベーションの傾向を測るための従業員意識調査を実施し、調査結果の分析・検証を開始しました。

## ●人材育成

### 《研修プログラム》

段階的な人材育成を目的に、入社時の「新入社員研修」をはじめ、新任役職者に対する「階層別研修」を定期的実施しています。また、業務に必要となる資格取得も推進しており、一級建築士に関しては、学科・製図双方についての定期的な研修を毎年実施しています。さらに若年層の技術力向上を目的とした「技術研修」の充実も図っており、建築職・土木職の社員については、入社10年後を目途に基礎的技術の完全習得を目指し、2年次研修と6年次研修を実施しています。そのほか若手設備系社員への「設備研修」や、事務職社員への「事務研修」など、さまざまな研修を定期的実施しています。

定期研修のスケジュールに沿いながらも、カリキュラムを見直すなど、より効果的・実践的な研修内容になるよう心がけ各研修を実施していきます。



新入社員研修の様相

2012年度階層別研修		
新入社員研修	4月2日～6月30日	67名
新任SV2(主任クラス)研修	9月10日～9月13日	13名
新任SV1(係長クラス)研修	12月4日～12月7日	32名
新任管理職研修①	10月15日～10月18日	45名
新任管理職研修②	11月13日～11月16日	39名

2012年度技術研修		
6年次土木職研修	6月18日～6月22日	13名
6年次建築職研修	6月18日～6月28日	31名
2年次土木職研修	10月29日～11月2日	9名
2年次建築職研修	10月29日～11月8日	11名
1級建築士研修(学科)	7月16日～7月20日	15名
1級建築士研修(製図)	10月1日～10月6日	14名

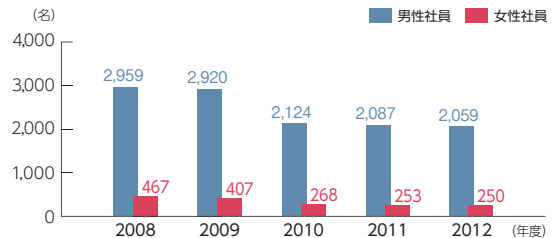
### 《インターンシップ受入》

次世代を担う学生の職業観育成の観点から、学生のインターンシップを積極的に受け入れています。

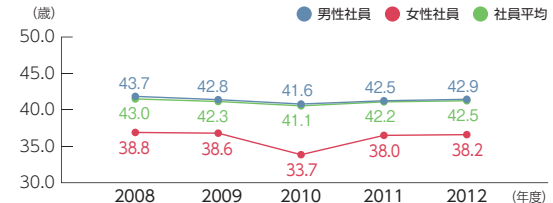
2012年度は、27名(2011年度は13名)のインターンシップを受け入れました。当社のインターンシップを通じて、学生の皆様には、社会や企業、そして建設業への理解を深めてもらう一方、受け入れ側である職場の活性化にもつながっています。産業育成・活性化の一環としても、今後も引き続き実施していく考えです。

## ●人事データ

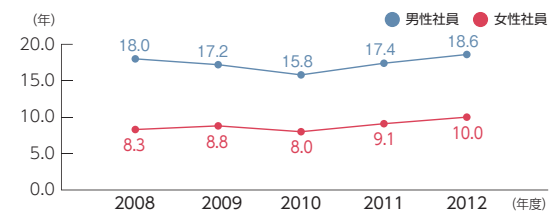
### ●男女別社員数の推移



### ●社員男女別平均年齢の推移



### ●社員男女別平均勤続年数の推移

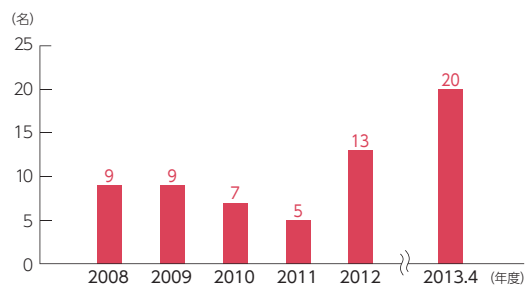


## ●ダイバーシティの推進

### 《女性の採用》

優秀な社員を確保するため、当社では、男女の別を問わず採用を実施しています。特に、近年では優秀な女性の総合職への応募が多く、採用が増えています。以前は建築設計担当者を中心とした採用が主でしたが、今では施工現場担当者も数多く採用しています。2013年度新卒募集では、設計担当者のほか、施工管理を担当する土木職、建築・設備職の女性技術者を採用しています。今後も、優秀な人材を多数採用し、ステークホルダーの信頼に応えられる技術基盤の確保と同時に、公平・公正な雇用環境の醸成に寄与していきます。

### ●総合職女性社員数の推移



### 《グローバル人材》

今後当社は、海外での事業展開を強化していく予定です。このような戦略を掲げるうえで、海外でのビジネスに精通した人材の確保は急務となります。これまでは進出国における現地採用が中心でしたが、今後は、日本国内における外国人留学生の採用など、現地に精通した総合職社員の確保を念頭に外国人採用を行い、さらなる海外展開に対応していきます。

## ●福利厚生

### 《育児・介護休職制度》

当社では、「育児・介護休職規程」を制定し、育児休職・介護休職の取得を可能とする制度を確立しています。「育児休職」「短時間勤務」「看護休暇」等が利用でき、女性社員を中心に利用され、2010年には男性社員も育児のために利用するなど、育児・介護と仕事の両立を可能にした実効性のあるものとなっています。

### 《半日有休・代休制度》

2011年度導入した「半日有休・代休制度」の利用が進んでいます。就業日でも自分の時間が確保できるなど、ワーク・ライフ・バランスに対応できる制度として定着してきました。

## ●ハラスメント対策

社員の人権尊重における重要課題として、「ハラスメント対策」に取り組んでいます。いわゆるセクハラについては『セクシャル・ハラスメントの防止等に関する宣言』を1999年4月に掲げ、適切な対応を啓発しています。また、パワー・ハラスメントについても、組織活動の中で正しい行動を徹底させる「戒めの言葉」として『上司心得6カ条』を2009年に定め、社員一人ひとりの人格を尊重し、遺憾なく能力を発揮し、働く誇りを持つ職場環境づくりに努めています。

## ●労使の対話

労使対話の非管理職の組織として、「西松建設職員組合」が組成されています。賃金交渉や労働環境改善を主な議題として、団体交渉や労使懇談会など、組合側代表と会社側の担当役員との定期的な話し合いが持たれています。2012年度は、社長も自ら話し合いに参加しました。

VOICE

### やりがいのある施工管理!!



現場は、性別を問わず一人の社員として見てくれます。その分、体力的にきついこともありませんが、女性ということで劣等感を感じたことはありません。疑問に思ったことや分からないことは上司が親切に教えてくれるので、日々新しいことを吸収でき刺激的な毎日です。今後も多くのことを学び、建物ができあがっていくのと一緒に成長していきたいです。

関東建築支社 北品川再開発出張所 中村 茉莉

# さまざまな経営リスクを的確に捉えた 継続的な企業活動の実践

ステークホルダーの皆様のさらなる信頼に応えるため、コーポレートガバナンスの強化を継続しています。当社は、コーポレートガバナンスの充実とともに、「すべての人を大切に想う」CSR経営を推進しています。

## ビジョン達成に向けて

<p><b>説明責任に対応したコーポレートガバナンスの確立</b></p>	<p>コンプライアンス重視や企業不祥事防止等を目的に導入した社外取締役制度に加え、収益力強化のため、リスク管理等の責任を明確化した事業本部制の導入により、コーポレートガバナンスを確立しています。</p>
<p><b>業務と組織の見える化による信頼確保</b></p>	<p>業務分掌や職務権限に関する規程にもとづき、事業本部制の組織的業務が執行されることにより、収益力強化とリスク管理が徹底されています。</p>
<p><b>コンプライアンスの徹底</b></p>	<p>昨年同様、コンプライアンス委員会活動やコンプライアンス研修等を通じて、コンプライアンスの啓発と意識向上を図り、順調にその理念が浸透しています。</p>
<p><b>徹底したリスク管理による事業の継続性と信頼確保</b></p>	<p>内部統制委員会を中心としたリスク管理手法と体制を、「より充実したリスク管理」を趣旨に見直し、リスク管理における有効性を高めました。</p>

### ●コーポレートガバナンスの概要

ステークホルダーの皆様との間に、長期的に安定かつ良好な関係を構築し、株主や投資家の皆様の期待に応えるべく、コーポレートガバナンスの充実を経営の最重要課題の一つとして取り組んでいます。

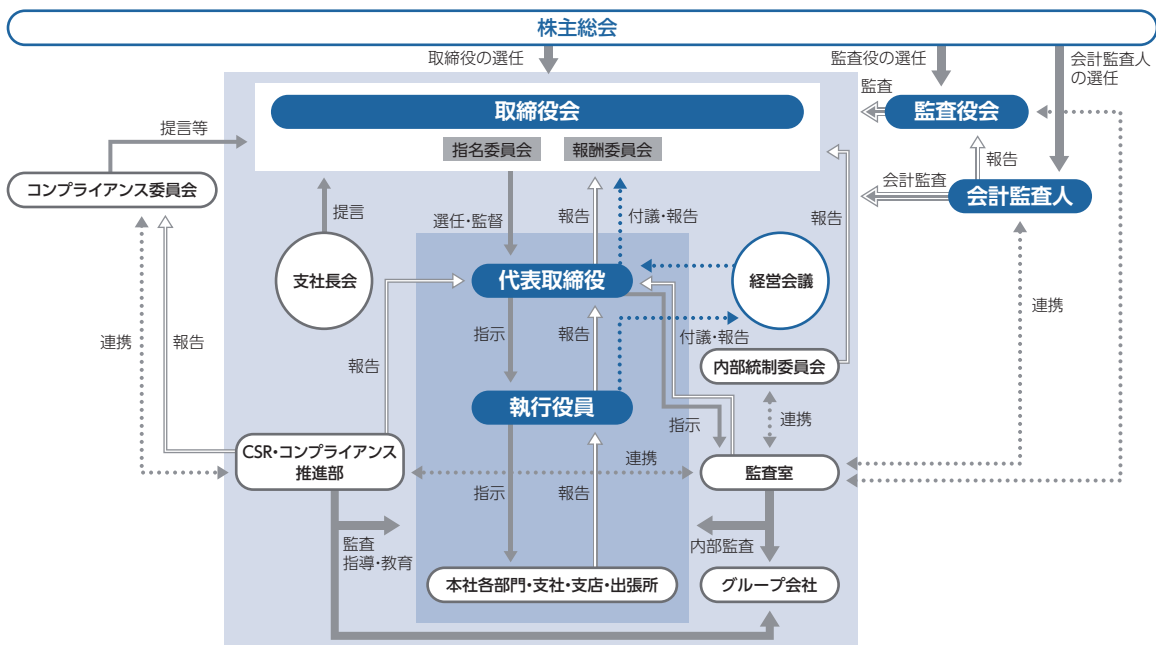
取締役会において、経営に関する意思決定を迅速に行うため、取締役を少人数化しており、また、業務執行体制を強化することを目的に、執行役員制度を導入しています。取締役会は、社外取締役2名を含む9名の取締役で構成されており、取締役会で決定された基本

方針に従って、21名の執行役員が業務執行の任にあたっています。

また、当社は監査役会設置会社であり、監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成されており、業務の状況について監査を実施しています。

これらに加え、適切な経営体制を構築し、客観性および透明性を確保するため、取締役会の諮問機関として「指名委員会」と「報酬委員会」を設置しています。両委員会とも社外取締役が半数を占め、委員長を社外取締役が務めています。

### ●コーポレートガバナンス体制





### ●取締役会

取締役会は9名の取締役に構成され、うち2名が社外取締役です。社外取締役は、公正かつ客観的な視点で経営者の業務執行を監視する役割を担うとともに、豊富な経験と幅広い見識から助言を行ってまいります。なお、社外取締役2名は、一般株主と利益相反が生じる恐れがないと判断されることから、独立役員として指名しています。取締役会は、法令または定款に定める事項や業務執行に関する重要な事項を決定するため、原則毎月1回および決算の開示日に開催するほか、必要に応じて随時開催しています。

また、取締役会が十分な情報にもとづき的確な意思決定を行うため、毎月1回「経営会議」を開催し、業務執行に関わる協議および取締役に諮る事項についての討議・報告をしています。これは、経営判断の迅速性の向上に大きく役立っています。

### ●指名委員会・報酬委員会

取締役および執行役員の指名については、経営体制の適切性と透明性を確保するため、諮問機関としての「指名委員会」を設置しています。また、取締役および執行役員の報酬決定についても、客観性・透明性の確保のため、諮問機関としての「報酬委員会」を設置しています。両委員会は、それぞれ委員の半数が社外取締役に構成されており、社外取締役が委員長を務めています。なお、社長は諮問案の作成にて意思表示するのみで、いずれの委員会にも属していません。

#### ●役員報酬(2012年度実績)

役員区分	報酬委員会の対象となる 役員の員数(人)	報酬等の総額(百万円)
取締役	10	253
監査役	5	49

#### ●社外役員の役割(2013年6月末現在)

役員区分	氏名	役割
社外取締役	齊藤 勝昭	建設会社の経営者として培った豊富な経験をもとにした、経営全般に対する助言・提言。
	佐藤 信昭	弁護士として培った豊富な経験をもとにした、経営全般に対する助言・提言。
社外監査役	松田 利之	企業経営に関する豊富な経験をもとにした、経営の方針・方向が妥当であるかについての意見具申。
	上杉 純雄	企業経営に関する豊富な経験をもとにした、経営の方針・方向が妥当であるかについての意見具申。

### ●取締役・監査役報酬関係

取締役の報酬等は基本報酬のみで構成され、会社の業績見込み、社員の給与水準ならびに世間相場等を勘案して算定しています。また、監査役の報酬については、取締役の基本報酬等を勘案して監査役全員の協議により決定しています。

### ●役員定年制

当社では、取締役会の硬直化の防止を図ることなどを目的として、取締役(社外取締役を除く)および執行役員の定年制を設けています。なお、取締役の任期は定時株主総会までの1年、執行役員の任期は4月1日から3月31日までの1年です。

### ●監査役会

当社は、監査役会設置会社であり、監査役総数4名のうち2名が社外監査役です。また、監査役のうち2名が常勤です。

監査役会は、定期的に代表取締役と経営上の課題等について意見交換を行い、相互の認識を共有しています。また、本・支社、支店および主要な作業所に対して、業務の有効性と効率性、法令遵守、リスク管理、財産の保全、内部統制の状況等について監査を実施しています。

なお、社外監査役2名は、(株)東京証券取引所の定める独立役員として届け出ています。また、取締役の指揮命令に属さない監査役専従のスタッフを配置することで、監査役会の機能強化を図っています。

#### ●取締役会および監査役会への社外役員の出席率(2012年度実績)

	開催数	社外役員の平均出席率
取締役会	18回	98.6%
監査役会	22回	100%

## さまざまな経営リスクを的確に捉えた 継続的な企業活動の実践

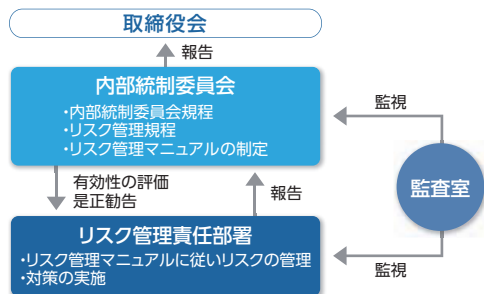
当社グループにおけるリスク管理を適正に行うことにより、損失の最小化と持続的成長を図ります。企業活動を取り巻くさまざまなリスクを的確に捉えることで、万一の事態への対応にも備えていきます。

### ●全社的なリスク管理体制と活動

当社は、「リスク管理規程」および「内部統制委員会規程」を定め、主な個別リスクを定義し、全社的なリスク管理体制を構築しています。

リスク管理は内部統制委員会が推進し、個別リスクごとに責任部署を定め、予防的リスク管理体制と発見的リスク管理体制を構築しています。また内部統制委員会は、責任部署におけるリスク管理の整備・運用上の有効性の評価・是正勧告・取締役会への報告を行い、リスク管理のPDCAサイクルを確保しており、監査室が責任部署と委員会による「リスク管理⇒有効性の評価」という一貫したシステムの存在と適切な運用を監視しています。2012年度は、内部統制委員会を5回開催し、個別リスクの対策見直しを指示しました。

#### ●リスク管理体制



### ●反社会的勢力の排除

反社会的勢力に対しては、「反社会的勢力への対応マニュアル」を作成のうえ、行動指針を明確化し、全社をあげ、毅然とした組織対応で排除に取り組んでいます。2012年度は、法改正にもとづくマニュアルの改訂・周知を行うとともに、対反社会的勢力に関する研修活動も実施しました。

### ●情報セキュリティ

当社では、「情報セキュリティ管理規程」や「インサイダー取引管理規程」等を整備し、情報セキュリティの維持・強化に努め、毎年、入社時や階層別研修およびeラーニングによる教育を実施し、情報セキュリティに関する啓発を図っています。また、セキュリティツール活用による社内IT資産管理や情報漏えい等のリスク管理、情報セキュリティの内部監査実施による情報資産の適切な管理・保護の重要性に関する意識づけを行っています。

### ●事業継続計画(BCP)

2012年度から新たに「BCPワーキング」を設置し、事業継続計画の取組みを強化しました。また、東京都が制定した「帰宅困難者対策条例」が施行されたことに伴い、3日分の食料等を確保するなど、備蓄計画を見直しました。2012年度のBCP訓練においては、災害用伝言板(web171)などを利用し、家族の安否確認を実施するとともに、実際に備蓄食の試食、ブランケットならびに簡易トイレの使用体験など帰宅困難者対策を想定した訓練を実施しています。

今後は、発生が予想される南海トラフ巨大地震に対して、全社体制での対策を講じていきます。



2012年度BCP訓練の様様

VOICE

#### 2012年度BCP訓練に参加して。

2012年度のBCP訓練に参加して備蓄食を試食したほか、簡易トイレやブランケットを使用体験しました。備えとして用意していても実際に使用したことはなかったこともあり、非常に有意義な訓練となりました。自宅でも家族と確認するなど、災害時の備えや訓練の重要性を改めて認識することができました。

技術研究所建築技術グループ 新井 寿昭



# 社会の要請に対応した コンプライアンス優先による企業の発展

改革の原点に立ち戻り、社内におけるさらなるコンプライアンス意識の向上・浸透を図ることで、ステークホルダーの期待や要請に確実に応えられるコンプライアンス企業を目指します。

## ●コンプライアンス基本方針

社是である「勇氣、礼儀、正義」にもとづき「利益優先ではなく、法令・倫理を守ることによって企業は発展する」というコンプライアンスに対する強い決意を込め、「コンプライアンス基本方針」を定めています。また、社員各自がいつでも確認できるよう、基本方針を記載した「コンプライアンスカード」を作成・配布し、全社員に携帯を推奨しています。



コンプライアンスカード

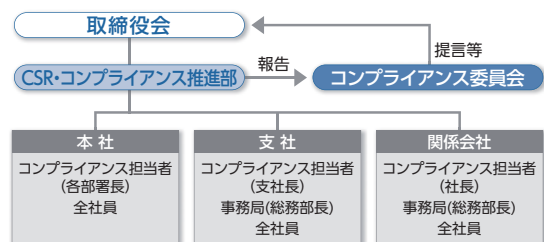
## ●委員会の活動

当社では、外部の有識者を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置しています。委員会は、原則月1回開催しており、新たに生じたコンプライアンス上の諸問題への対応、取締役会への提言・勧告、指導、研修を実施しています。

## ●推進体制について

コンプライアンス推進体制は、CSR・コンプライアンス推進部を主管に、本社各部署長、各支社長、グループ企業社長を担当者に指名し、研修等を通じてコンプライアンスの周知・啓発を図っています。また、コンプライアンス委員会とCSR・コンプライアンス推進部が連携し、推進活動に取り組んでいます。

## ●コンプライアンス推進体制



## ●監査の実施

コンプライアンスに関する活動状況、リスク管理状況とその管理プロセスの確認を目的に、本社各部署、支社およびグループ企業に対し、「コンプライアンス監査」を実施しています。監査結果は報告書としてまとめ、委員会に提出し、その後の改善活動に役立てています。

## ●企業風土醸成のためのコンプライアンス研修

風通しの良い企業風土を醸成するため、役員レベルの研修とともに、グループ討議を主体とした各種研修を実施しています。また、社内イントラを通じたミニドラマによる映像教材を活用したe-ラーニングを実施しています。

2012年度コンプライアンス研修実績	
役員他幹部クラスへの研修(11月)	106名
本・支社、支店社員への研修(10月～12月)	352名
新入社員、新任役職者への研修(4月～12月)	245名
e-ラーニング12プログラム(4月～3月)	延6799名

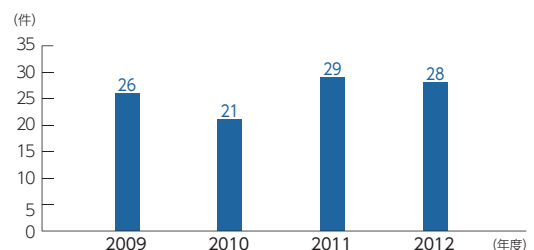


2012年度コンプライアンス研修の様様

## ●内部通報制度

不正行為の抑止や、企業風土の改善を目的とした「Nishimatsuホットライン」を2009年3月から開設しています。通報窓口は社内と社外があり、派遣社員や海外のローカルスタッフを含む西松グループの全社員とその家族、また協力会社およびその社員の方も利用できるようにしています。なお、是正や改善が必要な通報や相談については適切に対応しています。

## ●Nishimatsuホットライン利用件数の推移





# 「健全な地球環境」の 次世代への継承に向けた「環境経営」の実践

建設業が環境に対して直接的に負荷を与える事業であることに鑑みて、その環境影響負荷低減に関する積極的な取組みを進めています。

## ビジョン達成に向けて

### 「環境配慮企業宣言」に向けた取組み強化

環境保全活動や先進的環境施策の積極展開に向け、それを強力に推進するための体制強化について検討し、次年度以降の活動の基礎固めをしました。

### 環境ソリューション事業の積極展開

土壌汚染浄化事業やエネルギーハーブビルに向けた実証実験などにおいて、建設ゼロエミッションを目指した体制づくりや要素技術の開発等を進めました。

## 西松建設環境方針

西松建設はCSR経営方針に基づいたN-Vision2020実現のため、環境マネジメントシステムの運用・改善に努め“環境”分野の目標達成に向け活動します。

### I. 環境配慮企業としての取組み強化

- i) 環境配慮推進体制をより充実させていきます。
- ii) 地域・社会への環境対応活動を積極的に推進します。
- iii) 環境負荷低減活動および環境保全活動を推進します。
  - 地球温暖化防止
  - 建設副産物の発生抑制・リサイクル
  - 資源・エネルギーの有効利用
  - 生物多様性の保全
  - 大気、土壌、水域の汚染防止
  - 振動、騒音、粉塵の発生抑制
- iv) 環境の法規制・社会的要求を順守し、社会的な価値観に照らして行動します。
- v) 教育を推進し、全職員の環境配慮意識の向上とその共有を図ります。

### II. 環境ソリューション事業の展開

- i) 環境技術の開発・高度化を図り、その活用を促進します。
- ii) 地球・地域環境に配慮した設計を推進し、社会に提案します。

2012年7月2日制定

## 環境マネジメントシステムの取組み状況

### ●ISO14001にもとづく 環境マネジメントシステム

当社では、ISO14001にもとづく環境マネジメントシステムを運用し、環境分野の目標達成のためにさまざまな活動に取り組んでいます。また2012年11月一般財団法人建材試験センターによる第11回目のマネジメントシステムの外部審査を受審し、認証維持が承認されました。

### 環境標語の募集

2013年度環境月間(2013年6月)に掲示する垂れ幕の標語を2013年1月に募集しました。協力会社の皆様や当社社員から177作品の応募があり、「子供らに地球の恵み 引き継ごう」を最優秀賞として選考しました。



環境月間の垂れ幕

## TOPICS

### 海外での環境保全の取組み

環境の取組みに関しては、海外の事業活動においても、その国の特性を踏まえ、当事国の関連法令を順守しています。また各国において積極的に環境保全活動に取り組んでおり、香港・シンガポールにおいては、ISO14001を認証取得しています。

香港では、現在施工中の「香港地下鉄南港線」の現場が、発注者(MTRC)が選定する年間表彰において環境分野のシルバー賞を受賞しました。大使館や高級ホテルが隣接する市街地での大深度立坑の掘削における騒音・振動対策を含む環境対応が高く評価されたものです。



## マネジメント状況

### ●環境目的・目標 2012年度達成状況および2013年度目標値

2012年度の環境目的・目標と達成状況および2013年度の目標は、下表に示すとおりです。

#### ●環境目的・目標 2012年度達成状況および2013年度目標値

環境方針	環境目的	目標指標	2012年度			2013年度 目標値	備考	
			目標値	実績値	達成度*			
建設副産物の発生抑制、リサイクル、適正処理	リサイクル率の向上	リサイクル率	93%	90%	○	(90%以上維持)	近年の実績がほぼ同レベルで推移しており、今後実績値把握に切り替えます。	
	発生抑制の推進(建築工事)	単位床面積あたりの排出量(現場ごとの平均)	40kg/m <sup>2</sup>	41.2kg/m <sup>2</sup>	○	(40kg/m <sup>2</sup> 以下維持)		
	効率的な適正処理の推進(電子マニフェストの普及)	現場の電子マニフェスト利用率(使用現場数/全現場数)	94%	94.7%	◎	—	目標指標を見直し、2013年度より「電子マニフェスト利用率」から「電子マニフェスト普及率」に変更します。電子マニフェスト普及率100%を目指していきます。	
	—	電子マニフェスト普及率(電子マニフェスト経路利用数/全マニフェスト利用経路)	—	84%	—	90%		
地域・地球環境に配慮した設計	環境配慮設計の実施	環境配慮設計実施率	土木	100%	100%	◎	100%	実施率:環境配慮実施物件数÷環境配慮実施可能物件数×100
			建築	60%	67%	◎	100%	実施率:環境配慮実施項目数÷環境配慮実施可能項目数×100
地球温暖化防止	—	単位施工高(1億円)あたりの二酸化炭素排出量	土木	—	66.7t/億円	—	66.0t/億円	集計項目・集計方法を見直しましたので再度目標に設定します。
			建築	—	18.7t/億円	—	18.0t/億円	

※:◎達成(100%) / ○ほぼ達成(達成度90%超) / △未達成

### ●環境法規制への取組み

めまぐるしく改正される環境法規制に対応するため、当社ではISO14001を環境管理のツールとして活用し、タイムリーな法規制情報の入手と展開、および継続的な社員教育の実践に努めています。また内部監査ならびに外部審査によりその適切性を確認しています。

なお、アスベストに関する環境法規制については、「大気汚染防止法の一部を改正する法律案」が今国会に提出され、可決・成立しました。これに関連し、2013年5月22日に石原伸晃環境大臣が都内の当社解体工事現場における石綿の飛散防止対策の状況を視察されました。



環境大臣への工事概要の説明



建物内の視察

# 環境負荷低減と 低炭素社会・自然共生型社会の実現

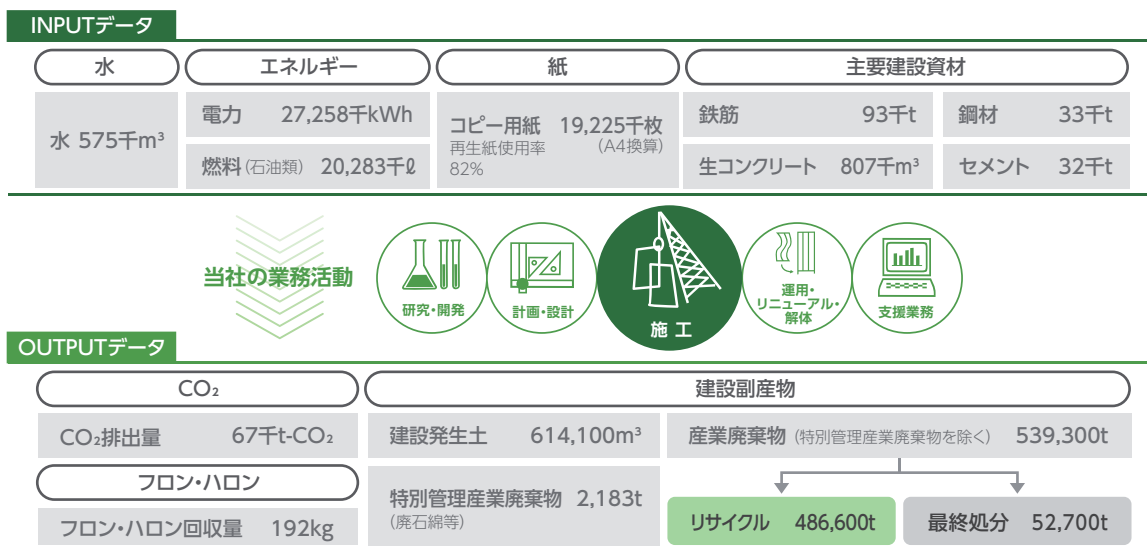
当社ではグループ企業も含め事業活動に起因する環境負荷の把握に努め、その低減を図っています。また設計段階から施工・運用段階までのCO<sub>2</sub>の排出量削減に取り組むとともに生物多様性保全にも努めています。

## 環境負荷データ

### ●マテリアルバランス

下図は、当社の2012年度の国内の事業活動によって発生した環境負荷を、マテリアルフローとして表しています。この図では環境負荷を、電力や水、建設資材など

の資源の消費 (INPUT) と、CO<sub>2</sub>や廃棄物などの排出 (OUTPUT) に分けて示しています。



### ●グループ企業における環境データ

#### 《西松地所(株)》

西松地所(株)は不動産開発並びに賃貸および保険代理店業務を担っています。西松地所の環境負荷データは下記のとおりです。

産業廃棄物発生量	9t
産業廃棄物再生利用量(減量化量含む)	8t
電力使用量	54,000kWh
水使用量	1,500m <sup>3</sup>
グリーン調達率(文房具)	85%
コピー用紙購入枚数(A4換算)	315,000枚

### ●海外事業における環境データ

#### 《 泰国西松建設(株) 》

泰国西松建設(株)はタイ国内の土木・建築工事を幅広く施工しています。泰国西松建設の本社屋における環境負荷データは下記のとおりです。

	2011年度	2012年度
電力使用量	184,500kWh	174,127kWh
水使用量	1,300m <sup>3</sup>	1,140m <sup>3</sup>
コピー用紙(A4換算)	800,000枚	790,000枚

### ●環境会計

西日本支社四国支店では低燃費車を8台導入し、支店管轄内の各事業所において施工管理や営業、各種パトロールなど、多岐にわたり活用しています。この低燃費車の導入により、環境面での効果として、通常のガソリン車と比較してCO<sub>2</sub>排出量は約13.5t-CO<sub>2</sub>削減できました。また一方で、その経済的な効果として燃料費を概算で年間約84万円節約できています。

#### ●低燃費車導入における効果の検証

年間走行距離※1 (km)	低燃費車8台分	226,973.29
低燃費車	公表燃費 (km/ℓ)	35.5
	ガソリン年間消費量 (ℓ)	6,393.61
普通乗用車 (想定※2)	公表燃費 (km/ℓ)	18.6
	ガソリン年間消費量 (ℓ)	12,202.87
低燃費車導入による年間ガソリン削減量 (ℓ)		5,809.25
環境的効果	ガソリン単位当たりの二酸化炭素排出量 (kg-CO <sub>2</sub> /ℓ) ※3	2.322
	削減CO <sub>2</sub> 量 (t-CO <sub>2</sub> )	13.49
経済的効果	ガソリン平均単価 (円/ℓ) ※4	144.8
	削減ガソリン費用 (円)	841,180

※1:低燃費車1台あたりの月間平均走行距離を12ヶ月分を算出し8台換算

※2:排気量1.8ℓ同クラス2006年式ガソリン車

※3:環境省資料「燃料別の二酸化炭素排出量の例」より

※4:算出時(2013年5月24日～5月30日)の香川県平均ガソリン単価



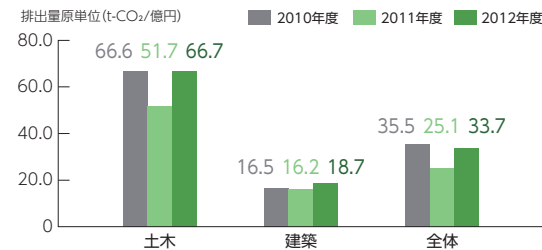
## 地球温暖化対策

### ●CO<sub>2</sub>排出削減の取組み

CO<sub>2</sub>排出削減の取組みについては、施工活動のCO<sub>2</sub>排出削減目標として“1990年を基準年とし2020年までに25%削減※1する”を掲げて活動しています。

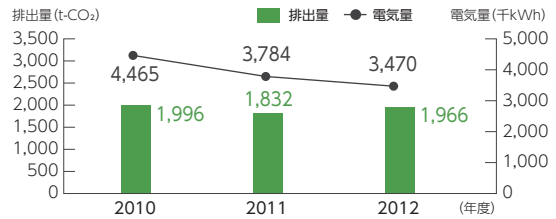
2012年度の結果※2は、土木工事で66.7t-CO<sub>2</sub>/億円、建築工事で18.7t-CO<sub>2</sub>/億円となりました。土木・建築とも2011年度を若干上回りました。この結果、日本国内の施工活動によるCO<sub>2</sub>排出総量は65.1千t-CO<sub>2</sub>と推定でき、2011年度(51.2千t-CO<sub>2</sub>)より27%程度増加しました。これからもCO<sub>2</sub>排出量の削減、地球温暖化防止活動を継続していきます。

### ●施工高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量(施工活動)※3



※1:単位は施工高1億円あたりのCO<sub>2</sub>排出量<原単位>  
 ※2:集計には、日建連の手法を準用  
 ※3:年度毎の排出係数を使用して算出

### ●CO<sub>2</sub>排出量(オフィスワーク)※3



### ●設計段階の取組み

設計段階においても環境に配慮した活動を推進しています。

設計施工物件については、当社独自の「環境配慮チェックシート」を用いて、環境配慮の達成度を評価するしくみを運用しています。また、社内基準にもとづく特定の物件については、CASBEE (建築環境総合評価システム)による性能評価を実施し、顧客に対して建物の環境性能を明示するとともに、コストパフォーマンスに優れた提案をしています。

こうした取組みとともに、2012年度、当社では、水冷式ヒートポンプエアコン等の冷却水の排熱を空調熱源に再利用する「Nicoシステム1」と、既存機械室のボイラー等の排熱を給湯熱源に再利用する「Nicoシステム2」を開発し、特許を取得しました。今後、新築物件対応のNicoシステム1と既存改修対応のNicoシステム2を活用することで、CO<sub>2</sub>削減に積極的に取り組んでいく考えです。

## 生物多様性への取組み

### ●ガイドラインの策定

生物多様性については、2011年3月に「西松建設の生物多様性行動指針」を定めて取組みを進めてきましたが、2013年度より詳細で具体的な配慮事項をまとめた「西松建設生物多様性配慮ガイドライン」を策定しました。今年度より全社に水平展開します。また、特に生物多様性への配慮が必要な工事現場においては、チェックシートを用いて、これまで以上にきめ細かい管理を実施していく予定です。

### ●愛川技研での在来種樹木の植樹

愛川技術研究所において、生物多様性への配慮の一環として、地域の風土に適した在来種樹木のポット苗(常緑高木・落葉高木・低木19種約150本)を植樹しました。

外来種の既存不要樹木を段階的に伐採しつつ、ポット苗を利用した植樹を行うことにより植栽コストを抑え、緑の量を確保したまま望ましい樹種へと交換する計画です。伐採材等は、マルチング材やエコスタック等として敷地内でリサイクルすることで、環境負荷と処分コストを抑えました。現在、この取組みを踏まえ、愛川技術研究所が立地する神奈川県内陸工業団地で進む緑地帯再整備に提案などを行っています。

なお今回の植樹では、平塚市の社会福祉法人進和学園様から、障がい者の方々から育てたポット苗を購入・使用させていただきました。



技術研究所職員によるポット苗の植樹作業

# 循環型社会の実現と 環境ソリューション活動の展開

当社は、廃棄物の発生抑制に力点を置いた建設ゼロエミッション活動に取り組んでいます。また大気環境保全への取り組みなど、さまざまな環境ソリューションを進めています。

## 資源循環

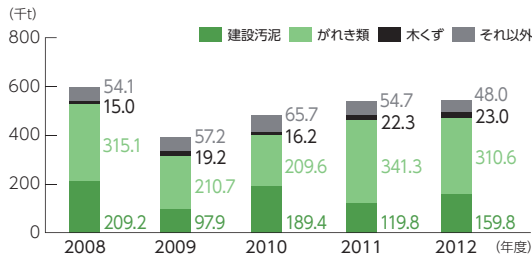
### ●2012年度の状況

建設副産物のうち建設発生土を除く建設廃棄物の種類別発生量を見ると、がれき類と建設汚泥が高い割合を占めています。また建設廃棄物のリサイクル率は各年度とも90%を超えており、高い水準を維持しています。

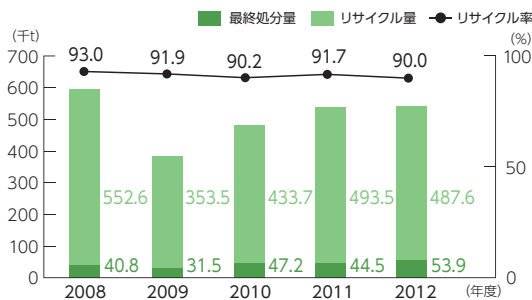
発生抑制を推進するため、建築工事における単位床面積あたりの建設廃棄物の排出量について目標値(40 kg/m<sup>2</sup>)を設定しています。2012年度の単位床面積あたりの排出量は目標をほぼ達成できました。(P30参照)

2012年度の結果を踏まえ、今後ともリサイクルと発生抑制を中心として3R活動を推進していきます。

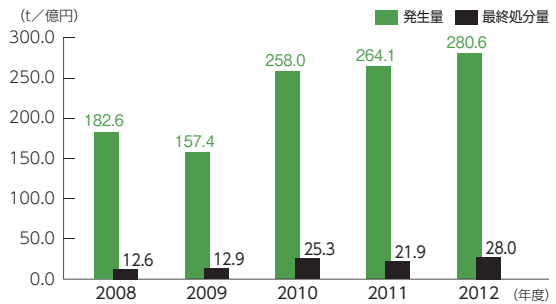
### ●産業廃棄物の種類別発生量の推移



### ●産業廃棄物の発生量とリサイクル率の推移



### ●単位施工高あたりの産業廃棄物発生量と最終処分量の推移



### ●グリーン調達

当社は環境負荷が少ない資材を調達することにより、循環型社会の構築に貢献しています。「グリーン調達ガイドライン」にもとづき、グリーン調達を推進しています。今後とも顧客や設計監理者へグリーン調達を提案していきます。なおオフィス部門においてもグリーン調達に取り組んでおり、オフィス製品調達率は79%に達しました。

項目	単位	2012年度
①高炉セメント	t	11,661
②高炉セメントを使用した生コン	m <sup>3</sup>	136,312
③再生骨材	m <sup>3</sup>	54,583
④再生加熱アスファルト混合物	m <sup>3</sup>	19,997
⑤流動化処理土	m <sup>3</sup>	10,539
⑥陶・磁器質タイル	m <sup>2</sup>	148,197
⑦カーペット (織じゅうたん、ニードルパンチカーペット、 タイルカーペット)	m <sup>2</sup>	14,319
⑧木質系セメント板、パーティクルボード、繊維板	m <sup>2</sup>	52,755
⑨照明制御システム	現場(現場数)	5



VOICE

### 米軍三沢出張所における建設副産物の3R活動

当現場では3R活動に積極的に取り組んでいます。建設副産物の発生抑制をはじめ、ブルーシートや土のう袋なども、可能な限り再利用に努めました。また、改修建物から発生する廃石綿は、埋立処分ではなく「熔融(廃棄物を高温で溶かす)」処理により、リサイクル率向上を図っています。今後とも分別徹底を基本とし、3R活動を推進します。

北日本支社 東北支店 米軍三沢出張所 朝山 大輔

## 環境ソリューション

### ●道路トンネルの大気浄化システム (沿道環境保全のための技術)

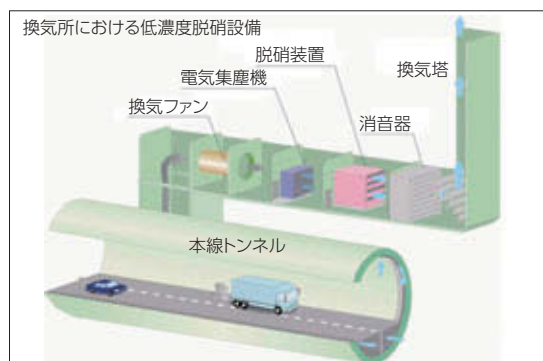
当社は、大気浄化システムの研究開発に着手し、公募実験等で性能を実証してきました。本システムは、首都高速道路中央環状線のトンネル換気所に採用され、都市内の道路整備に伴う大気環境保全に貢献しています。



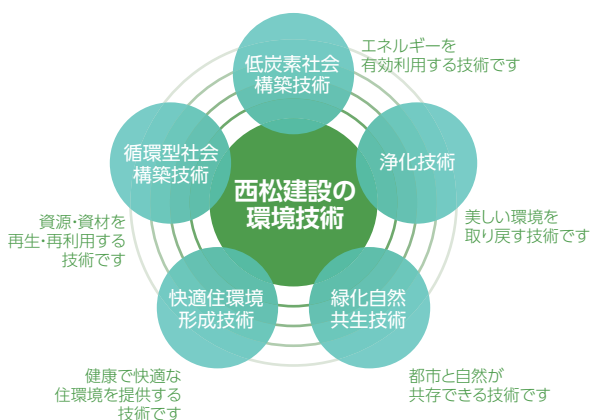
首都高中央環状線換気所

「低濃度脱硝設備」は、トンネル内の空気からSPM(浮遊粒子状物質)とNO<sub>2</sub>(二酸化窒素)を高効率に除去する大気浄化システムです。このシステムによって、SPMは電気集塵機で80%以上、NO<sub>2</sub>は脱硝装置で90%以上除去され、浄化された空気は地上45mの換気塔から上空に排気されます。

建設業が実施する環境対策としては、工事施工に伴う環境負荷低減に目がいきがちですが、上記のような地域環境の保全を図る環境技術も数多く開発しています。こういった技術を通じて、今後も持続可能な社会・環境づくりに貢献していきたいと考えています。



低濃度脱硝装置



### ●ジオポリマー(CO<sub>2</sub>を大幅に低減できる新素材)

ジオポリマーは、セメントを用いない環境に優しい新材料です。当社は研究開発成果の第一弾として、ジオポリマーを用いた外構ブロックを小学校校舎の外構に適用しました。

ジオポリマーは、産業副産物であるフライアッシュや高炉スラグ微粉末を珪酸ナトリウム水溶液(水ガラス)で固化させたもので、ジオポリマーで構造物を建設した場合、セメントで建設するよりCO<sub>2</sub>を大幅に(80%程度)削減することができます。セメントコンクリートと同レベルの圧縮強度が得られ、同強度のセメントモルタルと比較すると、耐アルカリ骨材反応性や耐酸性も優れています。このように優れた環境特性を持つジオポリマーの研究開発は、適用先拡大に向け現在も継続しています。



ジオポリマー



ジオポリマーで製作した外構ブロック



校舎外構に使用したジオポリマー外構ブロック



# 地域・社会の中に存在する企業市民としての積極的なコミュニケーションの推進

「常に地域・社会に感謝し、積極的な交流を図る」という理念のもと、社会貢献活動という社会参加を通じて、人と人とのつながりによって醸成される、共生社会の実現を目指します。

## ビジョン達成に向けて

### 企業市民としての積極的社会参加

「社会貢献活動月間」の全社一斉清掃のほか、日本全国各地および海外の事業所において、さまざまな社会貢献活動を展開してきました。

### 事業スキルを活かした貢献

大規模災害復旧などの際に、先陣を切って対応する建設業だからこそできる活動があると考え、「地域防災拠点機能」整備の検討を始めました。

## ●2012年度の主な社会貢献活動一覧

日付	本・支社・支店名	部署・現場名等	活動内容
2013年 2月22日	北日本支社東北支店	東北営業部	東日本大震災について当社社員が北海道企業局にて講演
2月21日	北日本支社札幌支店	徳富ダム出張所	徳富ダムグリーン倒壊事故での救助活動等に対する感謝状授与
2月7日	北日本支社および東北支店		社員による献血活動
2月2日	九州支社		佐賀県白石町における土地改良施設の管理に係るボランティア活動
1月24日	九州支社	米軍嘉手納工事事務所ほか	事業所周辺の歩道の清掃活動ほか
1月7日	北日本支社札幌支店		札幌ユネスコ協会へのカレンダーおよび手帳の寄贈
2012年 12月28日	西日本支社中部支店	尾張建築出張所	現場仮囲い万能堀に子供たちの絵を掲示
12月19日	九州支社	米軍嘉手納工事事務所ほか	事業所周辺の歩道の清掃活動ほか
12月6日	関東建築支社	北品川再開発出張所	現場仮囲い万能堀に子供たちの絵を掲示
11月17日	北日本支社		イオングループ「ふるさと森づくり」イベントへの参加
11月10日	海外支社香港営業所		国際クリーンアップキャンペーン参加による海岸清掃活動
11月4日(2010年～毎年)	九州支社	米軍嘉手納工事事務所	尚巴志ハーフマランへの参加
11月1日	九州支社	大学院大学ビレッジ出張所	台風後の防風林除去作業
10月28日(2010年～毎年)	九州支社	伊江地下ダム西II出張所	ハイビスカスの植樹活動に参加
10月25日	九州支社	米軍嘉手納工事事務所	社員および協力会社職員による献血活動
10月22日	西日本支社関西支店	和歌山秋葉山出張所	地元工業高校生徒向けの現場見学会
10月8日、20日	北日本支社		ひまわりプロジェクト(収穫)等
9月3日～	北日本支社東北支店	名取出張所	現場仮囲い万能堀に子供たちの絵を掲示
8月27日～9月14日	北日本支社東北支店	胆沢ダム出張所 仙台建築出張所	インターシップ実習の受入
8月4日、18日	北日本支社東北支店	名取出張所	地元祭事への協賛
8月4日	泰西松建設		ウタイ寺院清掃活動
7月27日	九州支社	JR鹿児島出張所	鹿児島市内の小中学生を招いた現場見学会
7月21日	九州支社		佐賀県白石町における土地改良施設の管理に係るボランティア活動
7月3日(毎年2回)	北日本支社		社員による献血活動
6月27日	本社	CSR・コンプライアンス推進部、広報部	川崎市中学校生徒による会社訪問の受入れ
6月26日	北日本支社札幌支店	徳富ダム出張所	新十津川町にて10年間続けてきた清掃・除排雪活動に関する表彰
6月15日	本社	愛川技術研究所	振動台を用いた耐震技術などの地元小学校むけ課外授業
6月～	関東建築支社	北品川再開発出張所	仮囲いに植栽ディスプレイコーナー設置
6月7日、25日	九州支社	伊江地下ダム西II出張所	地元小学生向け現場見学会の開催
5月～6月	全社	全国各現場	「社会貢献活動月間」における「新たな社会貢献活動」としての「現場見学会」「仮囲いギャラリー」
5月19日、6月9日	北日本支社		ひまわりプロジェクト(種まき、ひまわりおよびハーブの植付け)
6月6日	北日本支社		仙台市中央地区「春のポイ捨て防止キャンペーン」への参加
5月7日(毎月活動)	北日本支社および東北支店		社屋周辺の地域清掃活動
3月～2013年2月	関東建築支社		スポンサーシップ契約「FC町田ゼルビア 子ども夢チケット」
4月9日	北日本支社	札幌支店	各種団体との連携による、札幌駅北口広場での交通安全啓蒙活動
4月7日	北日本支社		「ひまわりプロジェクト」による、桜等の苗木の植え付け
毎月(2010年～)	九州支社	米軍嘉手納工事事務所	事業所周辺の歩道の清掃活動ほか
適時(2010年～毎年)	関東建築支社 関東土木支社	横浜営業所	「ハマロード・サポーター」参加による地域清掃活動実施
適時(2010年～)	九州支社	米軍嘉手納工事事務所	エコキャップ回収運動

※5月および11月の社会貢献活動月間に合わせた地域清掃活動等の活動は除く



### ●新生西松の日(5/15)清掃活動

当社では、2009年度から毎年5月15日を「新生西松の日」と定め、現場および事業所周辺地域の全国一斉清掃活動を継続的に実施しています。2010年度からは5月15日だけでなく、5月と11月を「社会貢献活動月間」と定め、2012年度も本社をはじめ、全国各地で清掃活動などを毎週実施しました。

### ●各種社会貢献活動

新生西松の日の清掃活動のほかにも、全国各地でさまざまな活動を推進してきました(左頁表参照)。各支社・支店、営業所や現場単位で、地域清掃活動をはじめ、現場見学会の開催や献血活動、祭事・イベントへの協賛・参加など独自の活動を積極的に実施し、国内はもちろん海外の事業所においても、日々地域とのコミュニケーションを深めています。

### ●社会貢献イベントの開催(新たな取組み)

地域清掃活動のほか、さまざまな社会貢献の取組みを進めています。2012年度は、一斉清掃を行う「社会貢献活動月間」に合わせ、「地域との触れあい」や「建設業の魅力の発信」をコンセプトに、工事現場の仮囲いに子供達の絵を飾る「仮囲いギャラリー」や、小中学生をはじめ地域の皆様を対象とした「現場見学会」を全国で実施しました。なお、この活動は「社内公募」により選定したものです。社内外の評判も上々で、その後の活動にもつながっています。今後も「社会貢献活動月間」に合わせ、毎年継続して実施する予定です。



現場見学会の様様



仮囲いギャラリー

## TOPICS

### ひまわりプロジェクト(2011年6月～)の新たな展開

震災直後から継続的に当社が関わる、花と緑を通じたコミュニティー支援「ひまわりプロジェクト」が進化しています。2012年度は、当社が提供している仮設住宅地隣地「美田園花の広場(宮城県名取市)」での活動に加え、仙台空港隣接の津波被災地に、直径60mの「スマイルマークひまわり畑」を造り、全国そして全世界に向けて笑顔を発信しました。全国の皆様からの温かいご支援のもと、地域の皆様そして仮設住宅にお住まいの皆様とともに笑顔を生み出すことができました。また、有用植物を育てる「グリーンバンク」を造り、ハーブ等を育て収穫し、仮設住宅の皆様とハーブ料理を楽しみました。「ひまわりプロジェクト」を通じ、新しい絆が生まれ育っています。被災地での復興はまだまだこれからです。さらなる新しい絆を育むことができるよう活動を継続していきます。

※ ひまわりプロジェクトの詳細はこちら ※  
<http://himawariproject.japan-site.net>



美田園花の広場



ハーブ料理教室



スマイルマークの空撮

VOICE

地域の皆様とのコミュニケーション推進のため社会貢献活動に取り組んでいます。

当事業所では、2008年より、ビーチ清掃、離島での植樹活動、エコキャップ活動、地域スポーツ行事への参加、月1回の道路清掃等に取り組んでまいりました。地元の方々から感謝の声をいただくたびに、認知度もアップしてきていると実感していますし、より一層、やりがいを感じています。

九州支社 米軍嘉手納工事事務所 所長 森信 啓介





# 適正かつ強固な パートナーシップの醸成に向けて

磐石な事業基盤を築くため、当社の企業活動に欠かせない協力会社の皆様と、公正・公平な取引を基本としたより強固な協力関係を推進すると同時に、ともに社会の要請に応えられるCSRサプライチェーンの構築を目指します。

## ビジョン達成に向けて

**産業育成リーディング  
カンパニーへ向けた挑戦**

小中高生や地域の方々などに向け、現場見学会や会社訪問などを通じて、建設産業への理解の浸透と魅力の発信に努めました。

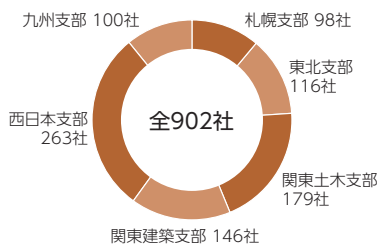
**適正なCSRサプライ  
チェーンの構築**

研修会や検討会の開催など、N-NET各支部や全国の活動の拡充を図りました。また、N-NETの趣旨を前提とした組織の適正化に関する検討も進めています。

### ●西松建設協会の(N-NET)

N-NETは、当社と会員会社が連携を取り、技術力の向上、原価の低減、情報交換、法令遵守教育等を通じて、社業の発展と業績向上のために協力し、相互の共存共栄と業者間の連帯を図ることを目的に2011年1月に発足しました。情報共有による受注活動協力、施工技术や原価低減等の提案協力、コンプライアンス教育や優良技能者制度を進めています。

#### ●西松建設協会 会員企業数



### ●2012年度の主な取組み

2012年は、N-NET会員による西松建設主催の技術発表会の聴講、会員間での施工事例発表会の実施を通じた施工技術力の向上に向けた活動を行うとともに、会員ホームページを通じた情報交換、優良技能者への表彰などの活動を展開しました。また、総会時に東日本大震災の被災地から特産品の購入など、震災復興に寄与する社会貢献活動も実施しました。

### ●優良技能者制度(職長の育成)

当社は、N-NETの発足とともに、優秀な職長を育成する観点から「優良技能者制度」を立ち上げました。2012年度の表彰は39名で、2年間の累計認定者数および表彰者数は76名となっています。優良技能者にはインセンティブも用意されており、この制度を通じて優秀な職長(技術者)の育成を推進していきます。

#### ●優良技能者制度表彰数

制度項目	年度	2011	2012	計
上級職長認定		6名	7名	13名
優良技能者表彰		30名	19名	49名
登録基幹技能者資格取得支援		1名	13名	14名
計		37名	39名	76名



優良技能者制度表彰式



施工事例発表会



物品購入による復興支援



復興支援で購入した地元特産物

VOICE

### 他社も羨むN-NETに向けて!



西松建設協会(N-NET)の発足から2年が経過し、少しずつではありますが歩を進めている感じがします。西松建設には、会員の要望に速やかに対応してもらっているので、我々会員も西松建設の想いに応えて一致協力し、ほかのゼネコンの協会から羨ましく思ってもらえるような組織にしていきたいですね。

西松建設協会 本部長 壮栄建設(株) 代表取締役社長 吉田 雅行 様



## ビジョン達成に向けて

## CSR活動の積極的発展

2012年5月には当社社員によるステークホルダーダイアログを、2013年4月には2012年度までの活動をテーマとして、お客様や有識者を交えた、ステークホルダーダイアログを開催しています。

## CSR活動の適切性確保

CSR活動に関する中長期目標と単年度の取組みについて、その進捗具合を確認し、最終成果をもとに次年度計画を設定する初年度のPDCAを確保しました。

## ステークホルダーダイアログ

## 西松のCSR ～「これまで」と「これから」～

2013年4月18日、西松建設の第2回目となるステークホルダーダイアログを開催しました。

今回は、それぞれ立場の異なるステークホルダーとして3名の方をお招きし当社のCSR活動について意見交換を行いました。

西松建設株式会社  
コンプライアンス委員長  
元一般社団法人共同通信社  
常務理事  
江畑 忠彦 様

麗澤大学  
経済学部 教授  
高 巖 様

みずほ銀行  
管理部 副部長  
山田 隆士 様

代表取締役  
執行役員副社長  
建築事業本部長  
前田 亮

代表取締役  
専務執行役員  
共通部門担当役員  
鈴木 堂司

執行役員  
社長室長  
河埜 祐一

CSR-  
コンプライアンス  
推進部長  
戸田 伊作

ファシリテーター  
(株)サステナビリティ会計事務所  
代表取締役  
福島 隆史 様

【開催概要】 ◎開催日/2013年4月18日 ◎開催場所/現場見学会：北品川再開発出張所 ダイアログ：西松建設株式会社 本社会議室  
【スケジュール】 1.現場見学会にあたっての工事概要説明 2.現場見学会 3.ダイアログ開催の趣旨説明 4.ダイアログ 5.総括と閉会のご挨拶

### ●「7+1の活動ポイント」にもとづく 西松建設のCSR活動

福島 西松建設のCSR活動は「7+1の活動ポイント」にもとづいています(P15参照)。これは社会的課題に対応した7つのポイントに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーション推進というポイント1つをプラスしたものです。今回のダイアログもその一環として、貴重な機会となるので、どうぞよろしくお願い致します。それでは、それぞれのお立場から西松のCSRの取組みについてご意見をお聞かせください。

### ●海外でのコンプライアンスについて

高 今回、ダイアログ参加に先立ちコンプライアンスマニュアル海外実践版を拝見しました。日本語と英語で70ページを超える量で、国ごとの法令や商慣習に配慮し、現場の方が判断できるように規準が明確にされています。私は30年近く企業倫理の研究をやっておりますが、海外リスクに関し、ここまで体系的に取り組んでいる日本企業はないとの印象を持ちました。

戸田 各国の状況変化に対応するため、コンプライアンスマニュアルは毎年見直しています。今後は、運用状況の確認が重要であると考えています。

### ●「お客様のお客様」の立場を意識した活動

福島 「7+1の活動ポイント」のなかでも『建設・顧客』は最上位に位置づけられています。顧客というお立場から山田様はいかがですか。

山田 私たちは支店の建設において、施主として西松建設に仕事を発注しています。その時点では西松さんにとっての私たちは顧客ですが、私たちの先にもお客様があり、支店はまさにその地域における「みずほの顔」であります。施工後は、それを支えていただく重要な事業パートナーとなっています。

鈴木 ありがとうございます。竣工を迎えると私たちは現場から移動しますが、お客様はそこでその施工物を何十年と使い続けるわけですから、現場の社員は『施工中は迷惑をおかけすることもあり大変申し訳ない』という謙虚な心で地域の皆様と向き合っています。



### ●重要課題における目標設定について

**福島** 西松のCSR活動において現在3つの重要課題が挙げられています。ガバナンスについての情報開示と透明性の確保、環境経営、人材育成です。これらの目標設定のあり方についてご意見をお聞かせください。

**高** CSRというと漠然としがちです。できることから取組むことはいいことですね。ただガバナンスは10年後とせず、すぐにでも取組むべきではないでしょうか。特に末端にまで浸透させるには勢いも必要です。



**河埜** ガバナンスは、社外取締役制度の導入等、既に取組んでおり、社内の風通しも少しずつ改善されてきています。社長は現場の社員との対話をとても大切にしています。広報部では社長への質問を受け付け、それに返信する社内イントラも整備しました。今は情報開示にも積極的になっています。

**江畑** 今後はソフト面での情報発信も充実させて欲しいですね。たとえば東日本大震災への復興貢献などは、もう少し積極的にアピールした方が良いと思います。またそのことが評価されることで社員のモチベーションアップにもつながるのではないのでしょうか。

**鈴木** 私の担当は環境経営です。『環境経営度No.1』という目標は、正直言ってかなりハードルが高いと感じていますが、全部署と協力して本格的に動けるような委員会組織をつくり、目標に向かっていきたいと思っています。



### ●グローバルな人材の育成について

**高** 西松は2012年で香港進出50周年、2013年でタイ進出50周年と聞きました。海外における事業活動を今後も伸ばして行ってほしいと思います。人材育成においても海外で具体的な数値目標を立てているのですか。

**前田** 私たちは、それぞれの国を一つの支社と捉えています。おかげさまで日本企業の海外案件を多数いただいております。今後の海外の売上高は、中期経営計画において2割を目指した計画を立てています。



**河埜** 人材育成においては、土木部門では適性を判断するために若手を1年間海外に派遣していますし、また建築部門では2012年には年間7名を海外に派遣し経験を積ませています。



**江畑** アジアを中心としたグローバル時代を迎え、感受性の豊かな20代のうちに海外での事業活動を経験するのはいいことですね。そのなかから未来の幹部候補が生まれると思います。

### ●社員がやりがいを感じられる会社を目指して

**戸田** 新しい取組みとして、2013年3月には従業員意識調査を行いました。人事制度改革にとまない、その改善に向けた課題も抽出されていますが、やはり建設業は人材が重要



です。西松ブランドをつくっていくために、社員がよりやりがいを感じられる会社にしていきたいと思っています。

**山田** 私どもみずほ銀行は、東日本大震災では大変お世話になりました。震災発生直後から多数の支店の被災状況を確認する必要がありましたが、あのような極限の状況であったにもかかわらず、迅速かつ短期間でご対応いただき大変感謝しております。この場をお借りして御礼を申し上げます。



**前田** ありがとうございます。短い時間ではありましたが、いろいろなお意見を頂戴し、さまざまなヒントをいただきました。進めてきた改革も、なぜそれをしなければいけないをもっと社内の隅々まで説明し、それを全社員で共有する必要があると感じました。さらに風通しの良い会社、透明性のある会社をつくってきたいと思っています。

**福島** 本日は、どうもありがとうございました。

## 第三者意見

今回で3冊目となる「西松CSRレポート2013」からも、西松建設が信頼回復に向けて着実に前進していることが伝わってきます。ステークホルダーを明確に意識しながら、その期待に応えていこうとする姿勢は大いに評価できるところです。2012年度は、CSR活動や社会貢献活動に関するPDCAが一巡しました。外部ステークホルダーをまじえたステークホルダー・ダイアログが行われた事実にも、西松建設がこの分野で着実に前進していることが窺われます。全国各地で展開される社会貢献活動の一覧からは、活動の広がりを実感することができます。

CSRレポートには広報的な意味もありますが、本来は当該企業のありのままの姿を対外的に情報発信するための媒体です。組織の活動内容をCSRレポートに適切に反映させるためには、若干の工夫が必要です。たとえば、今回のレポートでコンプライアンスについて説明した28ページで、私は、基本方針とは別に行動規範があるのかどうか、若干の疑問を抱きました。また、研修等によって周知・啓発を図っているとありますが、どんな研修をやっているのだろうか。「推進部」に確認してはじめて、コンプライアンスマニュアルが完備されていることを知りました。実際にそのマニュアルを見せていただくと、「上司心得6カ条」のほか、各現場で発生する可能性のある事例集と対応の仕方・設問から構成された実によくできたツールでした。これとは別に日英両言語で編集された「海外実践版」も作成されています。CSRレポートの上でこれらのマニュアルの中身まで開示する必要はないかもしれません。しかし、行動規範のほかにも有用なマニュアルを作成している事実は触れたほうが、むしろ読者が



西松建設のコンプライアンス体制の「深み」を理解する助けになるように思います。

環境に対する取組みは、社内で認識されているとおり、まだ十分とは言えないようです。<N-Vision2020>にあるような「環境配慮企業宣言に向けた取組み強化」をいっそう進めて、数年後には、「環境でも西松」と言われるようになってほしいものです。

麗澤大学 外国語学部 教授  
前企業倫理研究センター長 梅田 徹

## 第三者意見を受けて

2012年のCSRレポートに対しては、当社のコンプライアンス委員長である江畑様から、「人材を大切に活動すべき」との第三者意見をいただきました。今年3月に従業員意識調査を実施し、その結果を踏まえ、社員と会社のWin-Winの実現に向けた活動を推進しています。

西松建設は、『社員一人ひとりがCSRの実践者であり、全てのステークホルダーの皆様とWin-Winの関係を実現する』ことを目指して活動しています。「ステークホルダーを明確に意識しながら、その期待に応えていこうとする姿勢は大いに評価できる」と梅田教授より評価をいただき、意を強くしました。また、「CSRレポートにおいて、組織の活動内容を適切に反映させるためには、若干の工夫が必要である」「環境でも西松と言われるようになってほしい」というご意見をいただきました。ご指摘・ご期待に応えるような活動に取組み、さらに充実したレポートにすべく努力していきたく思います。

CSR・コンプライアンス推進部長 戸田 伊作

## 本レポートに関するご意見等

西松建設では、より多くのステークホルダーの皆様にご覧いただき、率直なご意見を頂戴することで、今後のCSR経営にもとづく企業活動のさらなる発展を目指しています。つきましては、本レポートおよび当社のCSR活動についてご意見等ございましたら、下記URLにアクセスいただき、アンケート回答とともに御寄せください。

ご意見等のお寄せ先 <http://www.nishimatsu.co.jp/csr/communication/>





## お問合せ先

西松建設株式会社 CSR・コンプライアンス推進部

〒105-8401 東京都港区虎ノ門1丁目20番10号 TEL03-3580-2303 FAX03-3580-2303



2020年までに1990年比  
温室効果ガス25%削減を  
目標とした国民運動。



適切に管理された森林で生産され  
た木材を使った環境配慮型のFSC  
認証紙を使用しています。



この印刷物は植物油インキ  
を使用しています。



有害な廃液が出ない  
水なし印刷方式で印刷  
しています。



見やすいユニバーサル  
デザインフォントを採用  
しています。